

ARCHIVE 3.11

東日本大震災 宮城県国際化協会 20 か月の軌跡



	遺体の安置場所	環境課	2階		総合体育館 旧青果市場跡地 ※死体検案終了するまでは、お
が	外国人が来た場合の対応	市民協働推進課	4階	4232	
か	介護施設の被害状況	介護保険課	2階		10番窓口
	仮設住宅関係事務	福祉総務課	2階	2457	準備中です。申請受けの 別途お知らせします。
	火葬の予約は	環境課	3階	3368	21日(月)まで担当・それ以 課
き	救護車両の許可書配布 義援金	防災対策課 福祉総務課	4階 2階	2522 4218	*ミヤコーバス19日から石 運行/時刻等は掲示物を参照

<2011. 3. 20 @石巻市役所>

ARCHIVE 3.11

東日本大震災 宮城県国際化協会 20 か月の軌跡

CONTENTS

第一章 Photo Archive

・ 3.11 14:46 その日、そのとき	1
・ 事務所復旧作業	2
・ 情報整理と多言語相談体制を整える	3
・ 国際 NGO、メディア対応	4
・ 緊急支援車両手配	5
・ 津波被災地で私たちが実際に目にした光景	6
・ 被災地巡回 16 日間走行距離 2,600Km の記録(19 市町)	8
・ 外国人の立場から東日本大震災をふりかえる会と総括専門家会議	10
・ 市町村日本語教室及び行政窓口巡回	12
・ 外国人母親対象子どもの心のケア研修会	13
・ 外国人県民によるインバウンド復活支援プログラム	13
・ 米軍が管理する避難所の仮設入浴施設へ災害時通訳ボランティアを派遣	14
・ 続トモダチ作戦～米国お見舞いメッセージ翻訳活動	14
・ 津波被災地日本語教室立ち上げ支援	15
・ 津波被災地域と隣接地域の外国人住民を繋ぐシンポジウム	16
・ 外国人による津波被災地の子どもたち応援プログラム	16
・ 日米トモダチコンサート	17
・ 仮設住宅での子育てを支援するための国際協力セミナー	17
・ 七ヶ浜町仮設住宅入居者等を対象とした世界の料理教室	18
・ 兵庫県国際交流員・留学生等被災地視察研修団受け入れ	19
・ 故テイラー・アンダーソンさんご遺族寄贈文庫翻訳活動	20
・ 3.11 の経験に基づいた定住外国人のための防災について学ぶ会	21
・ 大災害に備えた国別ネットワーク立ち上げ支援	21
・ 岩手・宮城・福島三県地域国際化協会からの報告シンポジウムと被災地視察	22
・ 米国 9.11 ドキュメンタリーフィルム“Rebirth”上映会	23
・ 日本語学習支援ネットワーク会議	23
・ 物資支援や義援金	24

第二章 3.1 1 東日本大震災被災外国人支援事業

3.1 1 東日本大震災被災外国人支援事業一覧	2 5
-------------------------	-----

STAGE I

発災から 10 日間 被災した事務所を拠点とした活動	2 7
----------------------------	-----

STAGE II

16 日間 2,600Km 被災外国人状況把握のための津波被災地巡回	3 0
------------------------------------	-----

STAGE III

検証とケア《外国人の立場から東日本大震災をふりかえる会》等の実施	3 2
----------------------------------	-----

STAGE IV

定住外国人の拠り所 地域日本語教室の早期復旧支援	5 2
--------------------------	-----

STAGE V

世界からの支援を被災地に届けるためのボランティアのコーディネート	5 4
----------------------------------	-----

STAGE VI

定住外国人等による被災地支援活動のコーディネート	5 7
--------------------------	-----

STAGE VII

定住外国人の自助力向上支援	5 8
---------------	-----

STAGE VIII

私たちの経験を全国に発信、課題の共有	6 0
--------------------	-----

第三章 資料編

・ 宮城県津波被災状況と各地の外国人登録者数	6 7
・ 東日本大震災の被災地における主な在留資格別外国人登録者数	6 8
・ 義援金とその使途一覧	6 9
・ 東日本大震災ドキュメント 2011.3.11～4.30	7 2

あとがき

当協会は、平成24年4月1日付けで公益財団法人へ移行したのに伴い、名称も「財団法人宮城県国際交流協会」から「公益財団法人宮城県国際化協会」へ改称しました。本冊子においては、事業の実施時期により組織名が異なりますので、ご了承ください。

ARCHIVE 3.11

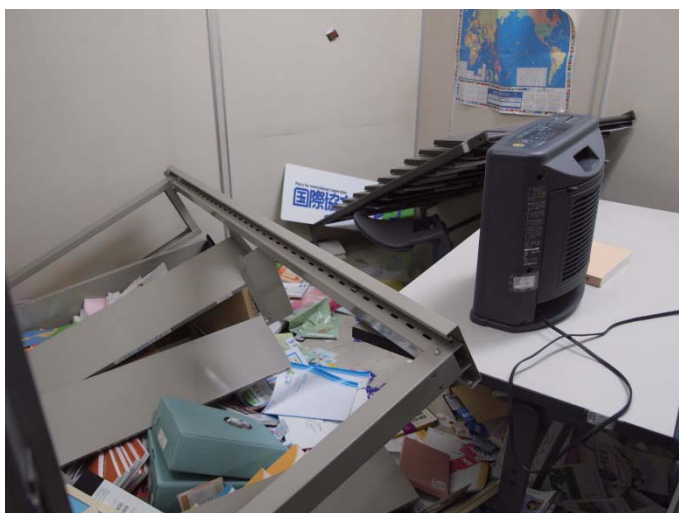
東日本大震災 宮城県国際化協会 20 か月の軌跡

第一章 Photo Archive

3.11 14:46 その日、そのとき



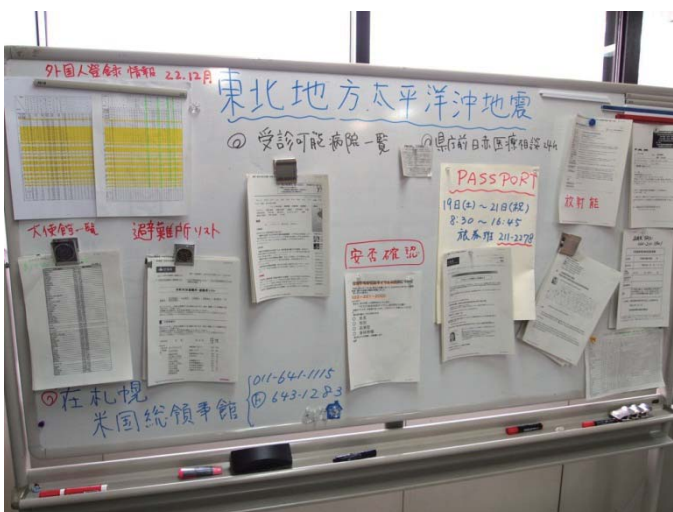
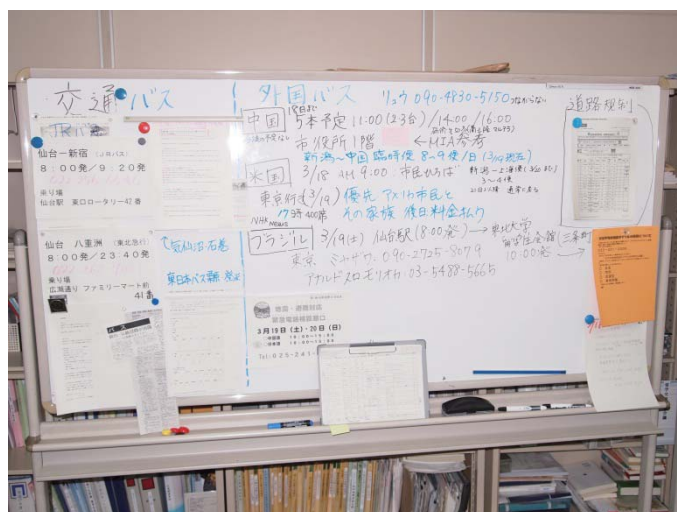
「外国籍の子どもサポーター」研修会の開催中。
35名の参加者のうち、半数以上が海外出身者で、
5名が石巻、本吉、南三陸方面からの参加者だった。



1	2
3	4
5	6

- 1.2. 地震直後の事務室
3. 地震発生時はこの相談室で外国人親子の相談に応じていた
4. 倒壊した書架で塞がれてしまった事務室から図書資料室への通路
5. 資料が散乱する図書資料室
6. 図書資料室で後片付けをする専務理事(当時)と事務局次長

情報整理と多言語相談体制を整える



東日本大震災における「みやぎ外国人相談センター」の対応について (財)宮城県国際交流協会(MIA)

「みやぎ外国人相談センター」では、以下の言語で相談の対応をしています。(9:00~20:00)
中国語 080-1653-1725 ポルトガル語 080-1653-1727
英語 080-1653-1724 日本語 090-5180-5343
タガログ語 090-7334-4098
●昼食・午後通訳センターの設置についても、ご相談に応じています。
●次の電話番号は、三重通話(トリオフォン)の利用ができます。電話を転じて、外国人とのやりとりを通訳することができます。022-275-9990(月~金 8:30~17:15)

<中国語>

有关东日本大震災宮城外国人咨询中心的对应 財団法人宮城県国際交流協会

我们“宫城外国人咨询中心”可在上午9点至晚上8点对应中文的咨询。
中文 080-1653-1725 (日文 090-5180-5343)

<韓国語>

동일본 대지진에 관한 「みやぎ 외국인 상담센터」 대응에 대해서 みやぎ현 국제교류협회

「みやぎ 외국인 상담센터」에서는 한국어로 상담을 할 수 있습니다.
(오전 9:00~오후 8:00)
한국어 080-1653-1726 (일본어 090-5180-5343)

<英語>

Consultation regarding the Great East Japan Earthquake Miyagi International Association (MIA)

Consultation in English is available at the Miyagi Support Center for Foreign Nationals from 9:00 a.m. to 8:00 p.m.
English 080-1653-1724 (Japanese 090-5180-5343)

<タガログ語>

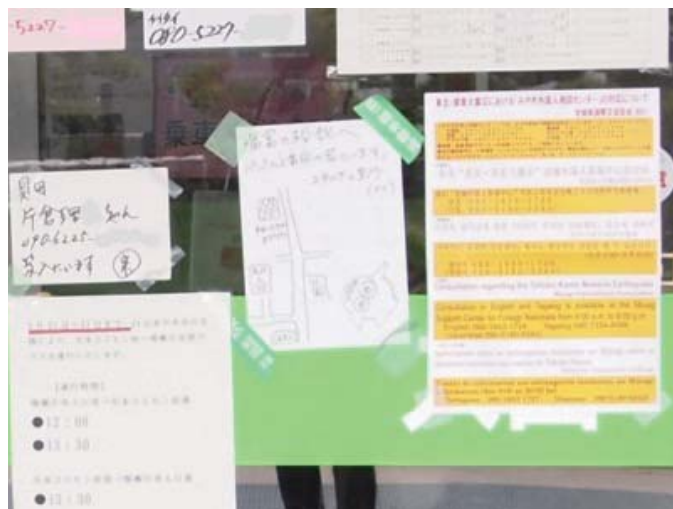
Konsultasyon tungkol sa Malaking Lindol sa Silangan Japan Miyagi International Association (MIA)

Konsultasyon sa Tagalog ay ginaganap sa Miyagi Sanggunian Sentro para sa mga Dayuhan mula 9:00 a.m. hanggang 8:00 p.m.
Tagalog 090-7334-4098 (Japanese 090-5180-5343)

<ポルトガル語>

Informacoes para os estrangeiros residentes em Miyagi sobre O Grande Terremoto do Oriente. Associacao Internacional de Miyagi

Centro de informacoes aos estrangeiros residentes em Miyagi.
Informacoes (das 9:00 as 20:00 hs)
Portugues 080-1653-1727 (Japones 090-5180-5343)



- | | |
|---|---|
| 1 | 2 |
| 3 | 4 |
| 5 | 6 |
- 1~4. 携帯電話を活用し、中国語、韓国語、英語、タガログ語、ポルトガル語、日本語で相談に応じる体制を整備。安否確認や県外への移動手段といった刻々と変化するさまざまな問い合せに迅速に応じられるよう、各種情報を整理・共有した
 - 5.6. 広報用のポスターを作成し、被災地の災害対策本部やボランティアセンター等に送付したほか、被災地に出向いた際に各地の避難所等に掲示した

国際 NGO、メディア対応



1	2
3	4
5	6
7	

1. 被災地の状況把握のために来県した難民支援協会のスタッフに現状を報告
2. 難民支援協会の車に同乗し、初めて被災地(石巻市)を訪問
3. ブラジルのメディアの取材に応じるポルトガル語相談員
4. メディアの取材に応じる中国語、タガログ語、ポルトガル語の相談員
5. 6. 外務省の招聘で来日した海外報道関係者の取材に応じるタガログ語の相談員
7. 埼玉県から被災地に支援物資を届けに来てくれた日系人教会関係者と



沿岸部の被災地域に出向くため、急遽レンタカーを手配。幸いにも震災のため仙台で乗り捨てられたたった1台の岩手ナンバーのレンタカーを借りることができた。また、県警発行の「緊急通行車両」証明が取得できたため、封鎖されていた高速道路の通行及びガソリンスタンドでの優先的な給油が可能となった。



津波被災地で私たちが実際に目にした光景



1	
2	3
4	

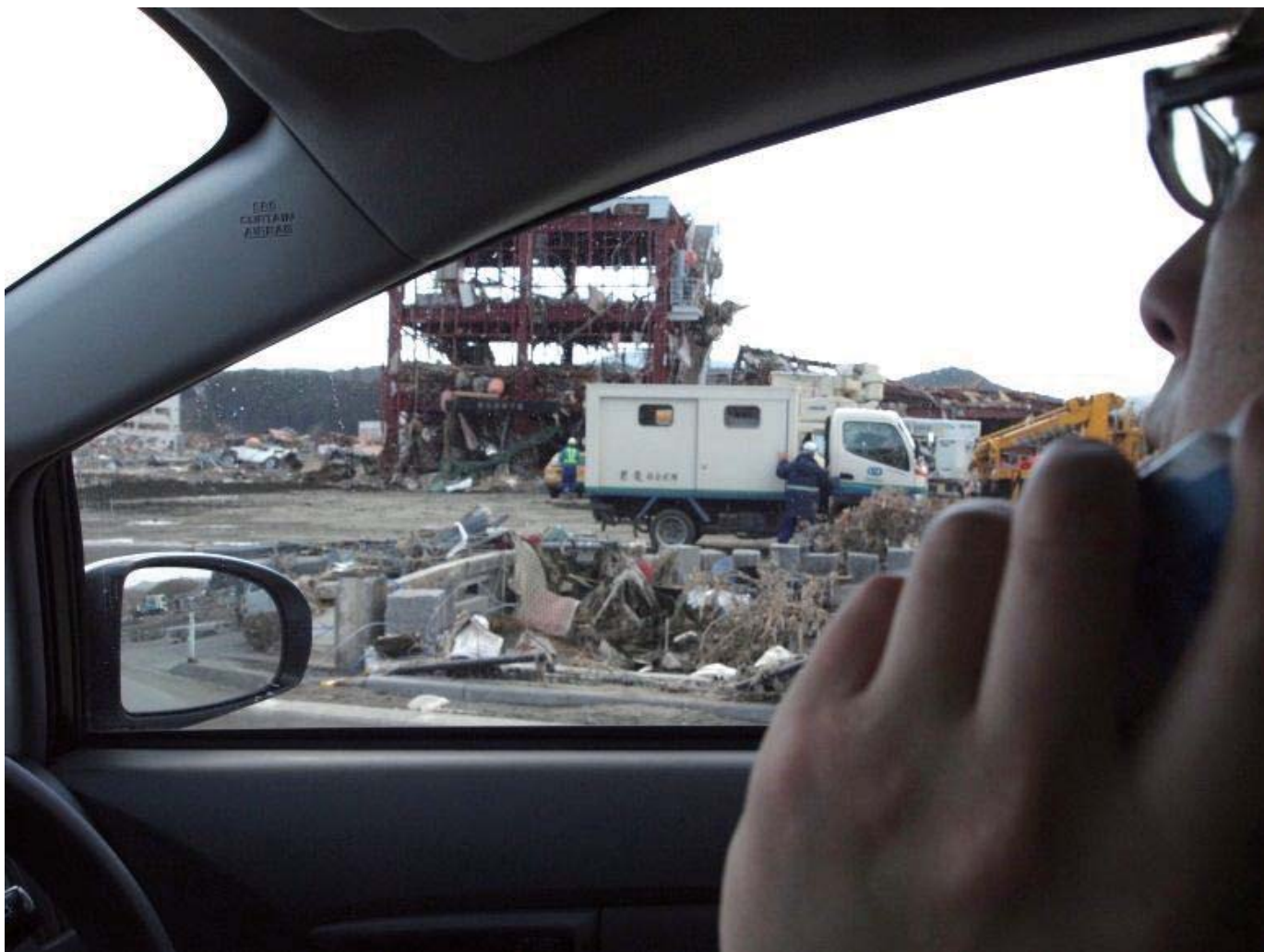
- 1.2. 南三陸町
3. 気仙沼市
4. 亘理町

津波被災地で私たちが実際に目にした光景



1. 女川町
2. 石巻市
3. 東松島市
4. 七ヶ浜町
5. 多賀城市
6. 石巻市
7. 仙台市宮城野区

1	3
2	
4	
5	6
7	



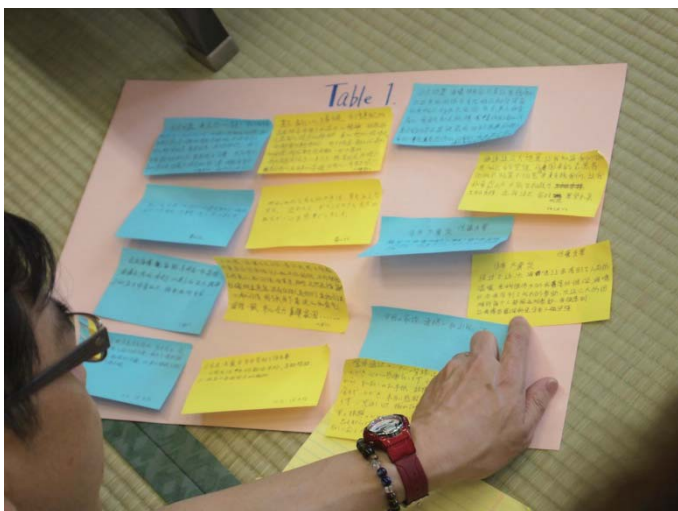
- | | |
|---|---|
| 1 | |
| 2 | 3 |
| 4 | |
1. 移動中も携帯電話で相談に応じる
奥に見えるのは南三陸町防災対策庁舎
 2. 集会所に集団で避難していた中国人技能実習生(気仙沼市)
 3. 地域のリーダー的存在のフィリピン人女性を介して避難所にいる同国出身者から聴き取り(南三陸町)
 4. 避難所で多言語相談対応の情報を掲示(登米市)



1	2
3	4
5	6

1. 地元の日本語教室関係者とともに津波の被害を受けた中国人父子から聴き取り(石巻市)
2. 避難所で支援活動にあたる「国際交流協会ともだち in 名取」のメンバー(名取市)
3. ポルトガル語相談員とともにブラジル人に支援物資を手渡す(大崎市)
4. 中学校に避難していたフィリピン人女性(石巻市)
5. 自ら被災しながらも地元で支援活動をしていた台湾出身者と(南三陸町)
6. 地元のフィリピン人コミュニティのリーダーからの聴き取り(丸森町)

外国人の立場から東日本大震災をふりかえる会と総括専門家会議



1	2
3	4
5	6

1. 仙台エリア編（宮城県仙台合同庁舎会議室）
2. 気仙沼編。久方の再会を喜び合うフィリピン出身者たち（気仙沼駅前コミュニティセンター）
- 3.4. 黄色の紙にはうれしかったこと、青色の紙には不安だったことを母語で書き出した
5. 仙南エリア編には、資生堂の副社長（写真手前左）も駆けつけ、自らもマッサージに従事（名取市サッポロビール仙台工場会議室）
6. 南三陸・登米編。当時南三陸町には使用できる会場がなく、隣接する登米市にて開催（登米市ホテルニューグランヴィア）

外国人の立場から東日本大震災をふりかえる会と総括専門家会議



1	2
3	4
5	6

1. みやぎ外国籍県民大学 OG 編に応援で駆けつけたベリーダンスチーム（エル・パーク仙台）
2. 石巻エリア編にはドキュメンタリーフィルムの取材チームも来訪（こ〜ぷのお家いしのまき）
3. ふりかえる会の総括専門家会議（当協会研修室）
4. 外国人対応について説明する宮城県警職員
5. 阪神淡路大震災を経験した兵庫県国際交流協会職員もはるばる来訪し、オブザーブ参加
6. 弁護士、行政書士それぞれの立場から意見交換

市町村日本語教室及び行政窓口巡回



1	2
3	4
5	6

1. 南三陸町国際交流協会の関係者にアメリカから届いたお見舞いキルトを手渡した
2. 気仙沼市小さな国際大使館の館長ムザファー氏(クウェート出身)、日本語教室の代表の方々に震災直後の状況や日本語教室の活動状況について伺った
3. 亘理町の日本語教室の方々に震災後の支援活動について説明を受けた
4. 移動中に目にした亘理町荒浜地区に積み上げられた瓦礫
5. 将来の災害に備え、FM わいわい(神戸市)寄贈の多機能ラジオを角田市日本語教室関係者に手渡した
6. 震災前の場所で活動を再開した「いわぬま日本語講座」

外国人母親対象子どもの心のケア研修会 外国人県民によるインバウンド復活支援プログラム

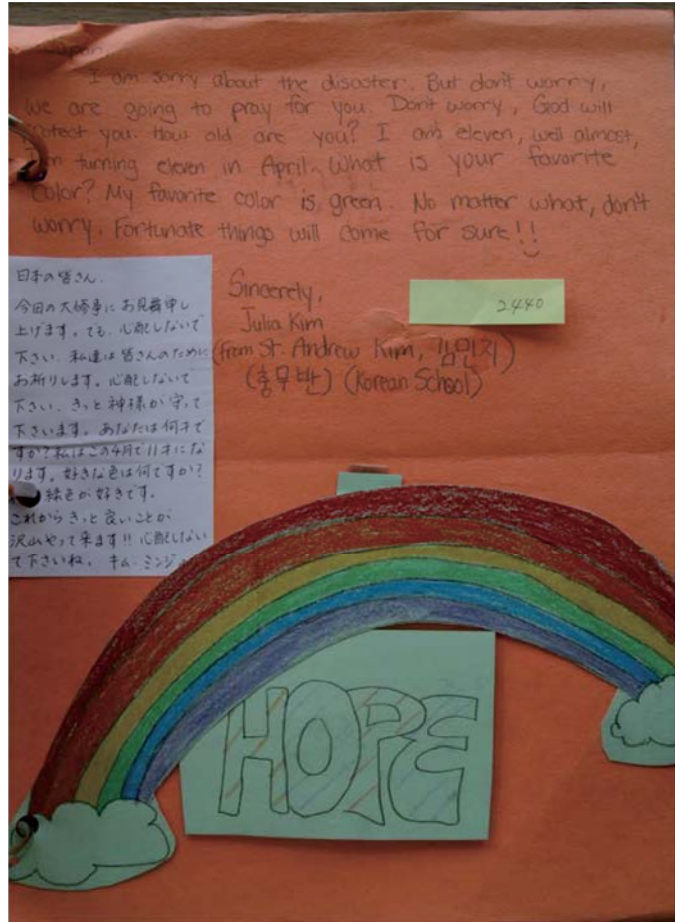


1	2
3	4
5	6

- ◎海外出身ママのためのこどもの心のケア学びの会
(登米市ホテルニューグランヴィア)
- 1.2. ルーテル学院大学教授らによる講話
 3. リラクゼーション体操を出席者全員で体験

- ◎外国人県民によるインバウンド復活支援プログラムには
フィリピン出身者が多数参加 (大崎市鳴子温泉)
4. 鳴子の紅葉を見ながら散策
 5. 鳴子温泉大沼旅館にて
 6. 大崎市内「あ・ら伊達な道の駅」で地場産品の買い物

米軍が管理する避難所の仮設入浴施設へ災害時通訳ボランティアを派遣 続トモダチ作戦～米国お見舞いメッセージ翻訳活動



1	4
2	
3	

1. 米軍による仮設入浴施設が設置されていた東松島市大塩市民センター
2. 米軍管理スタッフと利用する被災者が簡単にやり取りできるように災害時通訳ボランティアと協働で指さしカードを作成して、各仮設入浴施設に配布
3. 名取市に届けられたアメリカの小中学生からのお見舞いメッセージを一つ一つ丁寧に翻訳していくボランティアのみなさん
4. 日本語訳は手書きもしくはプリントアウトして貼付
5. 大きなファイルだけで6冊、千通を超えるメッセージを一ヶ月かけて翻訳

※「続トモダチ作戦」協力者（団体）

MIA 外国人支援通訳サポーター／宮城県災害時通訳ボランティア／仙台ボランティア英語通訳ガイドグループ GOZAIN／相談支援の会 OASIS／松島善意通訳者の会／宮城善意通訳者の会／宮城県教育庁

津波被災地日本語教室立ち上げ支援



1	2
3	4
5	

1. 「日本語ボランティア養成講座(南三陸編)」第1回目。仮設住宅から通う方々も
2. 講座2回目は町役場仮庁舎の会議室で開催。翌日にはこの部屋で町議会が開催されることとなっていた
3. 講座会場の一つ「ベイサイドアリーナ」に飾られていた南三陸町のキャラクター「ゆめ多幸鎮 オクトパス君」
4. 養成講座受講生が中心となって2012年9月に開講した南三陸町日本語教室の開講式
5. 当協会日本語講座講師が出向き、使用する教材などについて助言

津波被災地域と隣接地域の外国人住民を繋ぐシンポジウム 外国人による津波被災地の子どもたち応援プログラム



1	2
3	4
5	6

1. 隣町の南三陸町で被災したフィリピン、台湾出身者を囲んでの
パネルディスカッション
3. キャンドルで「絆」の文字も
- 2.4.5. 震災で JR 気仙沼線が不通となったが、当協会に寄せられた義援
金でレンタカーを借り上げ、気仙沼市本吉地区の幼稚園、小学校、
中学校に外国人講師を派遣した
6. 外国人講師派遣で長年にわたりご尽力の本吉町国際交流協会会長
とカザフスタン出身講師

日米トモダチコンサート

仮設住宅での子育てを支援するための国際協力セミナー



TOMO DACHI

東日本大震災復興支援事業

東証「トモダチ作戦」の知られざる数々のエピソードを
ふりかえる歴史と情しのフルートコンサート

**日米
トモダチコンサート**

TOMODACHI concert

Presentation on
Operation TOMODACHI

第1部：講演
「トモダチ作戦」をふりかえる
在札幌米国総領事館
広報文化担当領事
ジョン・テイラー

第2部：日米文化交流親善大使コンサート
出演 ジェーン・リグラー氏（フルート）
演奏曲目（予定）
『アメージンググレイス』
『主よ、人の望みの
喜びよ』 J・S・バッハ（選曲）

2011年12月20日（火）
開演 19:00 開場 18:30
エルパーク仙台 6F
ギャラリーホール
仙台市青葉区一番町 4-11-1 141 ビル TEL: 022-268-8300

お問い合わせ
財団法人宮城県国際交流協会 (MIA)
TEL: 022(275-5700) Email: mail@mia-miyagi.jp
URL: http://mia-miyagi.jp/

主催：在札幌米国総領事館 財団法人宮城県国際交流協会

入場無料
定員 200名

※定員となり次第、入場をお断りさせていただきますので、お早めのご来場をお願い申し上げます。
※来場希望の方はご来場ください。



◎日米トモダチコンサート

1. 共催団体である在札幌米国総領事館ジョン・テイラー領事によるプレゼンテーション、「トモダチ作戦」をふりかえる
2. 日米文化交流親善大使コンサートで演奏するフルート奏者・作曲家のジェーン・リグラー氏
3. 大崎市の姉妹都市米国オハイオ州ミドルタウン市から届いた応援横断幕も掲示
4. 広報チラシ

◎仮設住宅での子育てを支援するための国際協力セミナー

5. ネパールで支援活動をしている保育士の桜井ひろ子さんが日本とネパールの子育てについて講演
6. 留学生の協力を得て子どもたち向けの異文化体験コーナーも設置
7. 中国内モンゴル出身のイリナさんによる民族舞踊の披露と自身の子育てについてのお話

七ヶ浜町仮設住宅入居者等を対象とした世界の料理教室



1	2
3	4
5	6

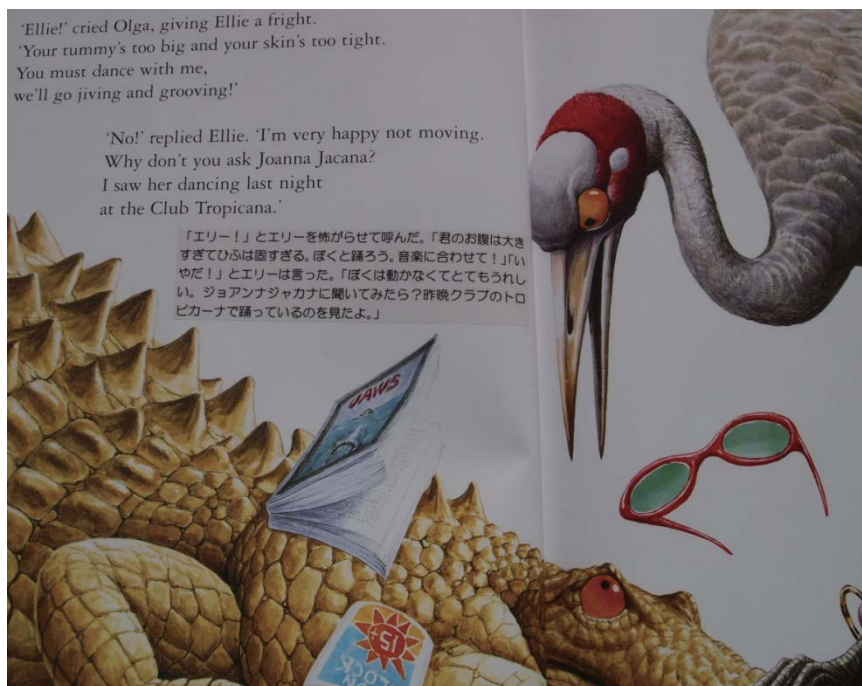
1.2.3. 国際交流員(CIR)を講師としたイギリス料理教室

4.5.6. 「みやぎ外国人相談センター」相談員を講師とした
韓国料理教室



1	2
	3
4	5

1. 気仙沼市鹿折地区。津波で港から五百メートル内陸に流された第十八共徳丸
2. 被災した県内在住外国人との懇談
3. 南三陸町戸倉地区
4. 南三陸町役場防災対策庁舎前で、震災体験を語り継ぐために活動している「語り部ガイド」の方から説明を受ける
5. 南三陸町復興商店街内の施設で町内在住の海外出身者から被災体験を伺った



1	
2	4
3	

◎東日本大震災で犠牲となった石巻市の ALT テイラー・アンダーソンさんの遺族が、テイラーさんが勤めていた小学校に図書を寄贈したが、英語の図書は小学生には難しいという現場の声があり、ボランティアによる翻訳プロジェクトが立ち上がった

1.4. 日本語訳は透明なシールに印刷して、絵本に貼付

2.3. 宮城県内の ALT（外国語指導助手）や CIR（国際交流員）青年たちと MIA 外国人支援通訳サポーターによる和気藹々とした共同作業

3.11 の経験に基づいた定住外国人のための防災について学ぶ会 大災害に備えた国別ネットワーク立ち上げ支援



1	2
3	4
5	6

◎防災について学ぶ会

～ニューカマーのための生活適応支援プログラム（当協会研修室）

1. SONAE 仙台防災学習研究所古橋所長による説明
- 3.5. 言語グループごとに通訳サポーターが通訳対応

◎ネットワーク力向上のための緊急研修会

～みやぎ外国籍県民大学フォローアップ事業（エル・ソーラ仙台）

- 2.4.6. 言語グループに分かれ討議中



1	2
3	4
5	6

1. パネルディスカッション「あのとき、現場では何か起こり、我々はどう動いたか？」
2. パネルディスカッションのコメンテーターを務めた宮城学院女子大学のJ.F.モリス氏
3. 分科会C「外国人による自助組織・ネットワークは？」
4. 三県の被災状況と地域国際化協会の復興に向けた取り組みを報告
5. 「語り部ガイド」の案内で南三陸町を視察。町防災対策庁舎前にて
6. 被災した南三陸町在住の台湾出身者との懇談

米国 9.11 ドキュメンタリーフィルム “Rebirth” 上映会 日本語学習支援ネットワーク会議



1	2
3	4
5	6

◎ 2001 年に発生した米国同時多発テロ事件の生存者や遺族らを追ったドキュメンタリーフィルムの上
映会。在札幌米国総領事館、東北学院大学と当協会による三者共催で開催した

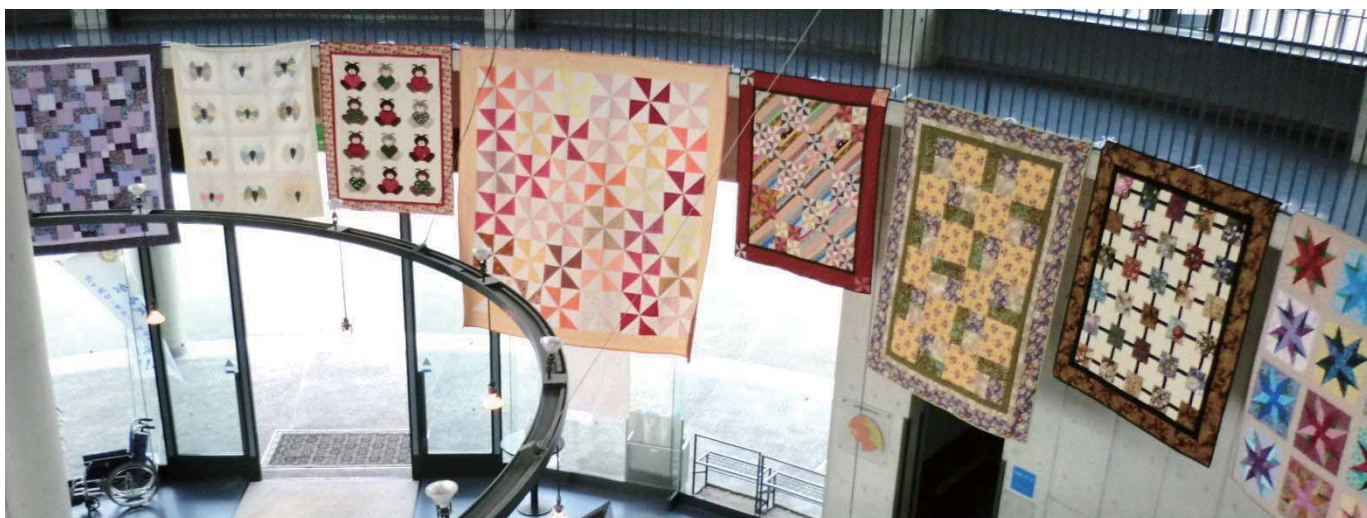
1. 開会の挨拶をする在札幌米国総領事館ダフィ領事
2. 会場には学生のみならず一般の方も多数足を運んだ
3. 後半のトークセッションの様子
4. このドキュメンタリーフィルムに込められた思いや東日本大震災の被災者へのメッセージを語った監督のジム・ウィテカー氏

※1～4 写真提供：東北学院大学広報部

◎ 被災体験をふまえて、セーフティネットとしての地域日本語教室の役割や連携のあり方を考えるためのネットワーク会議。県内の大学、地域国際化協会、民間団体等が実行委員会を組織して実施した

5. 気仙沼、南三陸、石巻の日本語教室関係者によるパネルセッション
6. 3つのグループに分かれてのラウンドテーブルでは、県内日本語教室の 3.11 後の活動や今後の展望などをテーマとしてディスカッションを行った

物資支援や義援金



1	2
3	
6	4
7	5

1. 調布市国際交流協会から義援金をいただいた
2. 海外技術者研修協会(AOTS)のフィリピン同窓会から義援金をいただいた
3. アメリカから届いたお見舞いキルトを七ヶ浜国際村に展示。キルトは展示終了後に被災した方々にお渡しした
4. 世界各国から送られた応援メッセージを七ヶ浜国際村に展示
5. アメリカから食料を持ってきてくれた日系青年。被災地巡回の際に被災した方々にお渡しした
6. FM わいわい(神戸市)を経由して英国 NGO Oxfam より寄贈された多機能ラジオ。次の災害への備えとして、当協会の多言語相談窓口の電話番号を記載したシールを貼って外国人に配布した
7. 下着メーカーより寄贈された女性用の下着。「震災をふりかえる会」などの際に配布した

ARCHIVE 3.11

東日本大震災 宮城県国際化協会 20 か月の軌跡

第二章 3.11 東日本大震災被災外国人支援事業

3.11 東日本大震災被災外国人支援事業一覧

(発災～平成 24 年 12 月抜粋)

東日本大震災は、巨大地震に続き津波、原発事故と想定していた震災とは大きく異なる展開をみせたため、私たちにとっては局面ごとの臨機応変な判断と実行する力が試された出来事となりました。

このような多重災害後の我々の取り組みを時系列にまとめてみました。

27 ページからは、各事業の実施要領、広報用ちらし、記録等を抜粋して掲載しています。それぞれの掲載ページは、(★POO)と付記してあります。

STAGE I 発災から 10 日間 被災した事務所を拠点とした活動

- 発災時の施設利用者の安全退避と被災した事務所の復旧作業 (★P27)
- 言語別携帯電話による相談体制の立ち上げ
- 押し寄せる安否確認への対応、各国大使館による国外退避に関する情報収集と発信
※3 月末までに 1,000 件超の問い合わせ
- 国際 NGO や個人からの支援の申し出に対する対応、メディア対応
- 宮城県警との連携による外国人安否確認作業

STAGE II 16 日間 2,600Km 被災外国人状況把握のための津波被災地巡回

- 沿岸部の津波被災地を中心に県内 19 市町を「緊急通行車両」により巡回。役所、災害対策本部、災害ボランティアセンター、避難所、個人宅を廻り、被災外国人の状況把握と求められている支援の整理を行い、具体的な支援に繋いだ。この間、延べ 60 人超の被災外国人と面談 (★P30)

STAGE III 検証とケア《外国人の立場から東日本大震災をふりかえる会》等の実施

- 津波被災地巡回をする中で、被災外国人のみなさんが自分の被災体験をととても話したがっていることに気づき、母語で同胞の方たちと存分に思いを吐き出すことのできる場の必要性を感じた。資生堂等の支援協力も得て、被災地を中心に県内 6 箇所で開催。200 名超の参加者の生の声を拾うことができた (★P32)
- 被災者が必要とするさまざまな申請手続きなどを網羅した多言語情報紙「MIA 多言語かわら版」震災特別号の発行 (★P48)
- 在京の NPO と協働で海外出身者の母親を対象とした震災後の子どもの心ケアについて学ぶ研修会を実施 (★P50)
- 放射能汚染についての理解を深めるため、福島で行われた研修会に多言語保健・医療通訳サポーターを派遣
- 東松島市内の仮設住宅で子育て支援のための国際協力セミナー《世界の子育て》実施 (★P51)

STAGE IV 定住外国人の拠り所 地域日本語教室の早期復旧支援

- 被災地域の日本語教室は外国人の安否確認と生活復興支援に大きな役割を果たし、「セーフティネット」として機能していたことが明確となった。しかし、多くの教室は被災し、再開の目途すら立たない状況にあり、学習者離れが懸念されていた。一日も早い再開に向けどのような支援が必要とされているのかニーズ調査のため、改めて被災地を巡回し、行政担当者、日本語教室主宰者、在住外国人が一堂に会するヒアリングを行った（★P52）
- 震災による津波で被害を受けた日本語教室に活動再開支援のための補助金を支給（★P52）
- 津波被災地である南三陸町において日本語ボランティアの養成講座を実施し、教室の立ち上げを支援（★P53）

STAGE V 世界からの支援を被災地に届けるための語学ボランティアのコーディネート

- 被災地が想像を超える壮絶な状況だったために、発災直後は派遣することができなかった災害時通訳ボランティア。米中小中学生らから届いたお見舞いメッセージの翻訳活動（「続トモダチ作戦」）、津波の犠牲となった ALT テイラー・アンダーソンさんのご遺族から寄贈された絵本の翻訳活動などをコーディネートした（★P54, P55）
- 避難所に米軍が設営した簡易入浴施設の運用に関する通訳のコーディネート（★P56）
- 海外メディア、NGO 等の被災地取材、支援に随行する通訳のコーディネート
- 農業再興のために導入した外国製機器の取扱説明書の翻訳コーディネート

STAGE VI 定住外国人等による被災地支援活動のコーディネート

- 風評被害で落ち込むインバウンド復活のため民間企業と協力し、定住外国人による観光地体験ツアーを行い、SNS を活用した情報発信
- 留学生や ALT などによる被災地ボランティア活動や被災者との交流活動
- 七ヶ浜町内の仮設住宅入居者を対象とした世界の料理講座（★P57）
- 日米トモダチコンサート
- 米国 9.11 ドキュメンタリーフィルム “Rebirth” 上映会

STAGE VII 定住外国人の自助力向上支援

- 災害時の安否確認や情報共有、相互支援を目的とした国別ネットワーク構築の支援（★P58）
- 3.11 の経験と反省に基づいた外国人向け防災研修の実施（★P59）

STAGE VIII 私たちの経験を全国に発信、課題の共有

- 岩手・宮城・福島三県地域国際化協会による支援活動中間報告会の実施（★P60）
- 岩手・宮城・福島三県地域国際化協会による合同シンポジウム&被災地視察を実施（★P62）
- セーフティネットとしての地域日本語教室の役割や連携のあり方を考察するための東北管内日本語学習支援ネットワーク会議の実施（★P65）
- 各方面への出講、シンポジウム登壇、寄稿（★P66）

被災直後から被災地巡回を始めるまでの動き

3.11(金)	・3月9日にも緊急地震速報が発令されるほどの地震を経験していたことから、各自速やかに安全確保。 ・相談室にいたブラジル人母子、「外国籍子どもサポーター研修会」参加者 35 名を荷物持参で1階駐車場に一旦退避させ、その後道路の混雑も勘案し帰宅を促す。研修会参加者の中には、南三陸、本吉、石巻方面からの中国人女性 5 名がいたが、停電で出庫できなくなった駐車場から人力で車を無理やり出庫させ、高速道路は不通だろうと予測し、内陸の道を辿って帰宅。 ・職員は様子を見てから7階に戻るが、余震も強く、暗くなってからでは各自宅もガラスが散乱しているなど危険なことが予想されたため明るいうちに解散、帰宅。 ・事務局次長、ロッカー付近のガラス等の後片付けなどをして事務所泊。
3.12(土)	・次長、事務局及び海外研修員会館チェック後、県庁主管課へ。 ・入れ替わるように企画事業課長、事務局へ。 ・相談センター専用電話にブラジル総領事館 Y 氏からブラジル人相談員の安否確認電話。その後、再びすべての電話が不通。 ・1階「ねんりんピック推進室」で無線電話を使い県庁主管課に連絡を取る。県庁が通電していること、情報が集まっていることから事務局を施錠し徒歩で県庁へ移動。ドアに『片づけは電気復旧後に』との貼り紙を残す。その後、嘱託員 3 名が登庁したが、貼り紙を見て帰宅。 ・県庁で協会携帯の充電をさせていただきながらテレビニュース、新聞でその被害の甚大さを知る。 ・次長は県職員車で一旦帰宅。企画事業課主任主査と県庁で合流。 ・県庁が災害ボランティアの ML を使って安否確認したいとのことで、協会事務所へ戻り、災害時通訳ボランティアおよび保健・医療通訳サポーター名簿を持ち出し県庁へ届ける。 ・合同庁舎は、電気×、水○、ガス×。福島第一原発一号機水素爆発。
3.13(日)	・事務所ドアに Y 医師からのボランティア志願メッセージが貼付されていた。ありがたい。 ・専務、次長、企画事業課長、主任主査で事務局の片付け作業。 ・仙台空港到着後に地震に遭い、目的地の大船渡に行けず困っていた中国人男性を名取市民の男性が当協会まで送り届けてくださる。国際電話を経由し、大船渡の知人に連絡を取ると仙台にすることがわかり迎えに来てもらう。その間、施設内の現状復帰に力を貸してもらう。 ・ようやく通電するもインターネット不安定。

3. 14 (月)	・ 新型インフルエンザ対応時に設置した 5 台の携帯電話を活用し「震災版多言語相談センター体制」を整える。さらに、タガログ語についてはフィリピン人相談員の厚意で個人の携帯を活用。 ・ 大使館とホットラインをもつ外国人相談員たちが、放射能から邦人を保護するために県外退避させるバスの情報を入手。ツイッターなどで不確定情報が飛び交うなか、とても助かる。 ・ 電話回線復活。国内外から外国人の安否確認情報が殺到。
3. 15 (火)	・ 実践者会議 ML に当協会の多言語相談電話体制について情報を流す。
3. 16 (水)	・ インターネットの状態が未だ不安定。向かいの「被害者支援センター」に回線借用を願い出て特段のご配慮で了承される。通信会社からカードを借用し応急処置。 ・ 外国人の安否確認のため、県警の生活安全課の警察官が毎日夕刻に来てくれることとなる。 ・ 全国の関連組織や内外の個人から言語ボランティアの申し出あり。しかしながら、土地勘のない方に入っていただくと職員の負荷が大きくなることが予想され、職員と協会から徒歩圏内のサポーターで乗り切ることとする。 ・ 夕方、インターネットが突如復活。理由不明。
3. 17 (木)	・ 県庁から多言語相談センターについての情報をマスコミに投げ込みしたところ、午後から電話殺到。中には不届きな「お試し電話」も。 ・ 被災地を回る NHK に多言語相談センターのポスターを持ち込み、現場での貼り出しをお願いする。(気仙沼、南三陸、女川、石巻、塩竈、東松島) ※以後、全国区でこの相談電話番号が流れたため、被災地だけではなく全国から相談電話が入るようになった。 ・ 県庁で偶然出会った県教育委員会教職員課〇氏が避難所となっている志津川中学校に向かうというので多言語相談電話一覧ポスターの掲示を託す。 ・ みやぎボランティアセンターで宮城県災害ボランティアセンターの立ち上げの状況を確認したところ宮城県社会福祉課で尋ねるように言われ、担当の Y 氏と面談したところ施設の調達ができず立ち上げの見通しが立たないと言われた。遅い。
3. 18 (金)	・ エフエムとめ、エフエムいわぬまに多言語相談センター情報をメールで送信する。 ・ 「東北・太平洋沖大地震外国人相談センター」看板設置。
3. 19 (土)	・ 企画事業課長、主任主査、主事、Y 嘱託員出勤。 ・ 8:50 緊急地震速報。 ・ 中国語サポーター S さんが長女を同伴で来所。オリエンテーションする間もなく電話対応に当たってもらう。 ・ SIRA 企画事業課長より JOCA からの中国語応援要員 T さんが時間を持て余しているとのことで、こちらに来てもらうこととする。14:00 S さんと T さんと引き継ぎを行い、S さんには帰宅していただく。 ・ 石巻市の K さん(韓国)、南三陸町の S さん(台湾)から次々に無事の電話が入る。

3.20(日)	・企画事業課長、主任主査、主事、Y嘱託員、午後からC嘱託員、中国語ボランティアKさんとSさんが出勤。 ・SIRA から在京の NGO 難民支援協会に MIA を紹介したとの連絡があり、間もなく東北大学生含め 5 人来所。JAPAN PLATFORM の傘下にある NGO ピースウィンズジャパンが気仙沼に入っており、直接電話で状況把握。中国人研修生については中国大使館からバスが迎えにきたようだ。インドネシアまぐろ漁船研修生についても大使館員が来て連れ帰ったようだとの情報を得る。 難民支援協会からはいろいろヒアリングされ、一番必要なこととして被災地への足を要望したところ、これから行ける範囲で被災地を回ろうということになり課長、主任主査が同乗させていただく。可能であれば南三陸か気仙沼と希望したが時間とガソリンのこともあり石巻から沿岸を南下することとした。 ・石巻市役所⇒石巻好文館高校(国際担当Kさん支援活動現場)ここで韓国人犠牲者の情報入手⇒中瀬付近では仙台市にあるM幼稚園の外国人スタッフがボランティアしていた⇒松島町役場では町長、副町長と面談。
3.21(月) (祝)	・課長、Y嘱託員、ブラジル人相談員出勤 午後から主任主査、C嘱託員が合流。 ・安否確認/名取在住韓国人男性 25 歳、身長 185cm、やせ形 ・フィリピン人相談員から連絡。フィリピンバスと物資の件(@元寺小路教会) ・成田空港スタッフからマジョルカ島から男女二人組の NGO が被災支援物資を持って仙台に向かったがガス欠等で立ち往生しているのでなんとかしてほしいとの連絡。スペイン語も話すブラジル人相談員に連絡を入れ、仙台駅付近で立ち往生していた二人と共に事務所に来てもらう。 持参した物資は毛布 120 枚。メディアでもダブついていることが知れている物資だが多賀城在住のオーストラリア人M氏経由で多賀城市の災対担当、IVYA 氏、元寺小路教会 E 神父に交渉したがやはり NO。 せんだい・、みやぎ NPO センターに滞在していた JAPAN PLATFORM の M 氏に対応をお願いすることにして彼らには一旦引き取ってもらう。 ・石巻の韓国人犠牲者の母国御遺族の遺体確認希望について⇒県警 ・県登米保健所 S 班長から中国人の精神科診療について相談 Tel。三者通話、通訳者の派遣も可能なことを知らせる。

3.22(火)

20 日の体験から被災地に出向かなければ情報が入らないことがはっきりしたため、専務、次長との meeting で車両の手配を要望し承諾される。専務からは自家用車利用の申し出もあったが、事務所への帰着時間が遅くなることや職員の遠慮もあることを考慮し、レンタカーを借りてもらうこととした。

幸い法人契約をしているレンタカー会社に仙台で乗り捨てられた岩手ナンバーのプリウスがあったため借り受け、安否確認で毎日通っていただいている県警 S さんのご配慮で、すぐに緊急通行車両の許可手続きもできたことから、午後には県南への被災地巡回に出発することができた。

以後、巡回レポートに続く。

被災地巡回レポート

日付	人員	被災地	役所または避難所(●)	備考
3/22(火)	大泉 伊藤 安田	山元町	山元町役場 災対本部 ●中央公民館	生涯学習課Iさん 韓国語相談員Hさん
3/23(水)	大村 大泉 安田 椎名サポーター	気仙沼市	気仙沼市役所 ●気仙沼中学校 小さな大使館館長ムザファー氏宅 ●松岩公民館 ●階上中学校 松崎下赤田にある集会所	元町づくり推進課 Kさん、ALT2名(米国) 市役所 Hさん 中国人研修生14名
3/24(木)	大村 大泉 伊藤	南三陸町	●入谷中学校 ●志津川中学校 ●ベイサイドアリーナ ●老健施設ハイム・メアーズ平磯 ●ハイム・メアーズ新館 ●志津川海洋青年の家	役場 Sさん 登米市国際交流協会I会長 フィリピン人Aさん フィリピン人J一家 フィリピン人妻3家庭 南三陸町協会後藤副会長、フィリピン人Aさん一家
3/25(金)	伊藤 安田 松原アンドレア	大崎市	古川駅 大崎市役所 災対本部 古川社協災害VC ●古川武道館	支援物資の受け渡し(ブラジル人3名、ペルー人1名)
3/26(土)	大泉 千金良	亘理町 岩沼市 名取市	亘理町災害対策本部 ●逢隈小学校 大東精密 ●亘理高校 ●吉田小学校 岩沼市役所 " 名取市役所 ●増田中学校 ●名取市立第二中	役場被災のため仮設の建物 逢隈小に避難していたフィリピン人4名 中国人2名(日本人配偶者、訪問時不在) 市政推進課 H課長補佐 岩沼アイビー Kさん 総務課国際交流担当 Iさん、K課長 介護長寿課 Nさん ともだちin名取 Wさん、他2名
3/27(日)	伊藤 千金良 佐藤(淳)	登米市 栗原市 多賀城市	●津谷若者総合体育館 ●登米中学校 ●登米市役所 レストランココス はさま会館 ●若柳多目的センター ●多賀城市民文化センター	市職員 Mさん 中国人2名、夫も交え中国人Iさんが困っていることなどを聞き取る 南三陸公民館長 Sさん、T校長 市企画部部長 Sさん 登米日本語講座Sさん、S先生、O会長 栗原市国際交流協会K会長 K会長も同行
3/28(月)	大泉 伊藤 安田	石巻市 女川町 石巻市	蛇田駅 ●鹿妻(かづま)小学校 中華料理店大福菜香館 町立病院 ●女川第二小学校 ●総合体育館 ●東北電力浦宿寮 NPO国際支援地球村	国際サークル友好21 Sさん 中国人Yさん親子 災対本部総括 Sさん フィリピン人Eさん一家聞き取り 理事長Kさん
3/30(水)	大泉 安田	東松島市	東松島市役所 ●グループホームあさざり 野蒜小学校 ●定林寺 ●大塚地区センター ●東松島市老人福祉センター	韓国人Oさん 総務課 Tさん 世話係代表 Aさん 中国人Mさん

被災地巡回レポート

日付	人員	被災地	役所または避難所(●)	備考
3/31(木)	伊藤 安田	塩釜市 七ヶ浜 多賀城市	市役所災対本部 ●塩釜ガス体育館 七ヶ浜災害ボランティアセンター ●天真小学校	
4/1(金)	大泉 安田	石巻市 雄勝地区	●河北町ビッグバン ●飯野川中学校 雄勝支所災対本部 ●大須小学校	フィリピン配偶者2名 中国・韓国 日本人配偶者 友好21 Sさんの娘さん 庁舎が津波被害に遭ったため臨時のプレハブ内に設置
4/2(土)	伊藤 佐藤(淳)	石巻市 多賀城市	●石巻中学校 ●青葉中学校 ●蛇田中学校 ●多賀城第二中学校 ●多賀城市総合スポーツセンター ●多賀城市民文化センター	フィリピン人3名と面談 日系ブラジル人と面談
4/3(日)	大泉 千金良	丸森町 白石市	丸森まちづくりセンター 丸森町役場災対本部 ●筆甫中学校 ●白石スポーツセンター ●白石市中央公民館 白石市役所災対本部	フィリピン人グループリーダーSさんに丸森・角田地域のフィリピン人の情報を同う 南相馬市の方々が避難していた 〃
4/4(月)	大村 安田 庄司マリーン	石巻市	矢元PA 石巻市役所 ●石巻中学校 宮城復興支援センター	県社協 Tさん フィリピン人Rさん フィリピン人Lさん
4/5(火)	大村 伊藤 安田	南三陸町 石巻河南	●入谷小学校、ベイサイドアリーナ 仮設役場、災ボセンター ●ハイム・メアーズ(新館、旧館) ●河南ホール/遊楽館 ●河南体育センター	台湾人Kさん、フィリピン人Aさん、 フィリピン人Jさん、 外国人被災者なし 韓国人Oさん、友人Oさん夫妻
4/6(水)	大村 大泉 安田	気仙沼	市役所 ワンテンビル ●ホテル望洋 バプテスト教会	被災者名簿確認 外国人被災者保護をしてくれたK社長 T講師、M講師
4/7(木)	大泉 伊藤	仙台市	若林区災害対策本部 宮城野区災害対策本部 ●幸町小学校、 ●幸町南小学校 鶴ヶ谷市営住宅	

東日本大震災被災外国人支援事業

『外国人の立場から東日本大震災をふりかえる会』

総 括 レ ポ ー ト

1 目的

被災地で暮らす海外出身者の中には、今回の大震災・津波に加え、それ以降も続く余震や原発問題、また慣れない避難所などでの暮らしから大きな不安を抱えたまま過ごしている方も多いと考えられる。この事業では、参加者自身の体験や不安を分かち合う「語りの場」を創出することで心のケアを図り、実体験に基づいた互いの知恵を共有しながらこの先も起こりうる震災の備えとして役立ててもらうものとし、また、弁護士、行政書士、県警、臨床心理士といった各分野の専門家が応援団として同行することにより被災外国人の安心・安全な生活復興支援の一助とした。

2 共通プログラム 別紙のとおり

3 協力団体・企業と役割分担

各実施地域自治体または日本語教室（参加者への広報）

宮城県警察本部通訳センター（生活安全アドバイス）

申請取次行政書士（在留資格に関するアドバイス）

弁護士（法律に関するアドバイス）

臨床心理士（心のケアに関するアドバイス）

株式会社資生堂（「お肌のケアは心のケア」プログラム担当）

NPO法人FMわいわい（災害時用多機能携帯ラジオ提供）

4 参加総数 外国人 203名（24か国・地域）

日本人 延べ146名（弁護士、行政書士、県警、臨床心理士、地域日本語講師）

※その他、適宜通訳者同行

5 地域内訳 ①仙台エリア編 ※兼ニューカマー生活適応支援事業

実施日時：平成23年5月17日（火）12：30～14：30

実施会場：宮城県仙台合同庁舎会議室（仙台市青葉区堤通雨宮町4-17）

参集範囲：仙台（一部利府）

参加外国人：16か国37名（中国15、韓国5、ベトナム4、タイ・カザフスタン・トルコ・ブラジル・スウェーデン・フィンランド・ガーナ・ナイジェリア・インド・アメリカ・イギリス・モンゴル・モロッコ各1）

専門家応援団：宮城県警通訳センター5名

弁護士3名

行政書士3名

臨床心理士1名

精神科医1名

日本語講師3名

宮城県国際経済・交流課1名

②仙南エリア編

協力団体：国際交流協会ともだち in 名取、日本語講座いわぬまアイビー、国際交流協会わたり、山元町国際交流協会

実施日時：平成23年6月6日（月）10：30～12：30

実施会場：サッポロビール仙台工場会議室（名取市手倉田字八幡 310-1）

※「国際交流協会ともだち in 名取」が日本語教室実施のために暫定的に借りている施設

参集範囲：名取、岩沼、亘理、山元、角田、川崎

参加外国人：5か国28名（韓国14、中国8、ブラジル3、フィリピン2、タイ1）

専門家応援団：宮城県警通訳センター2名

弁護士1名

行政書士3名

臨床心理士2名

臨床心理専攻大学院生1名

日本語講師26名

名取市役所1名

資生堂12名

③気仙沼エリア編

協力団体：気仙沼市小さな国際大使館、はまろう会、バヤニハン国際友の会

実施日時：平成23年6月9日（木）13：00～15：00

実施会場：気仙沼駅前コミュニティセンター（気仙沼市古町 1-2-15）

参集範囲：気仙沼（一部大船渡含む）

参加外国人：6か国33名（フィリピン20、中国7、韓国3、台湾・アメリカ・チリ各1）

専門家応援団：宮城県警通訳センター3名

弁護士1名

行政書士2名

臨床心理専攻大学院生1名

日本語講師13名

気仙沼市役所1名

資生堂8名

④南三陸・登米編

協力団体：登米市国際交流協会、登米日本語講座、登米日本語講座家族会

実施日時：平成23年6月14日（火）13：00～15：00

実施会場：ホテルニューグランヴィア（登米市迫町佐沼字中江 4-12-12）

参集範囲：南三陸、登米、美里、大崎、栗原、気仙沼、一関（岩手県）

参加外国人：5か国28名（中国17、韓国6、フィリピン3、インドネシア・イギリス各1）

専門家応援団：宮城県警通訳センター2名

弁護士1名

行政書士2名

臨床心理専攻大学院生1名

日本語講師4名

家族会3名

資生堂5名

⑤みやぎ外国籍県民大学OG編

実施日時：平成23年6月17日（金）11:00～13:00

実施会場：エル・パーク仙台 5F創作アトリエ（仙台市青葉区一番町4-11-1）

参集範囲：みやぎ外国籍県民大学卒業生（仙台市青葉区・泉区・太白区・宮城野区・若林区・石巻、東松島、山元、南三陸）

参加外国人：8か国24名（韓国9、中国8、フィリピン2、台湾・アメリカ・フランス・ブラジル・オーストラリア各1名）

専門家応援団：宮城県警通訳センター2名

弁護士1名

行政書士2名

臨床心理専攻大学院生1名

資生堂7名

⑥石巻エリア編

協力団体：国際サークル友好21

実施日時：平成23年6月23日（木）13:00～15:00

実施会場：こ～ぷのお家いしのまき 地域交流サロン（石巻市向陽町3-26-1）

参集範囲：石巻、東松島、涌谷、女川

参加外国人：11か国53名（フィリピン20、中国11、韓国8、ペルー3、タイ3、ベトナム2、ブラジル2、台湾・ボリビア・インドネシア・イギリス各1）

専門家応援団：宮城県警通訳センター3名

弁護士1名

行政書士1名

臨床心理専攻大学院生1名

日本語講師8名

石巻市役所1名

資生堂6名

6 通訳

必要に応じ配置

ひがしにほんだいしんさい
東日本大震災をふりかえる会

동일본 대진재를 돌아보는 모임

Remembering the Great East Japan Earthquake

東日本大震災回顧会

全回共通プログラム

- 開会のあいさつ

- 応援団のみなさまの紹介 ※警察、弁護士、行政書士、臨床心理士 など

- もしも、いま大地震が起きたら ※緊急地震速報を鳴らします



「災害時に活躍する多機能ラジオ」のプレゼント

- ・この大地震を経験してつらかったことやこまったこと ⇒ 青色の紙

- ・学んだことやうれしかったこと ⇒ 黄色の紙

- グループでのおしゃべり & 資生堂美容部員さんによるケア



- ほかのグループの話 もきいてみましょう

☆アンケート記入

- 閉会



齐心努力 重建家园!

우리 모두 손잡고 함께 힘내자!!

Stand together stand strong for Miyagi!

Muita garra e muita forza !Estamos juntos Miyagi !!

「外国人の立場から東日本大震災をふりかえる会」で参加者が語ったこと

※各コメントの最後は（話者の居住市区町村・出身国）を表します。

●地震前・地震発生直後

- ・地震の時は畑に逃げるようにと以前から夫に言われていました。（登米市・韓国）
- ・避難勧告をもっと強力にやっていたらと悔しく思っています。みんないつもと同じと思って避難せず、そのせいで私の近所の方もたくさん亡くなりました。（仙台市若林区・フィリピン）

●恐怖

- ・地震後、職場の上司に家に帰るように言われました。ですが、車が途中から大渋滞となり、なぜだろうと思っていたら、10メートルほど後ろを走っていた車が津波にのみ込まれていました。その何秒後かに自分が乗っていた車も水の上に浮かび上がり、くるくる回転し始めました。がんばって車から抜け出し、瓦礫の上に登っていた人の手につかまって、何とか助かりました。（気仙沼市・フィリピン）
- ・地震後の夜の市街地の火事と余震のたびに起こる地鳴りが怖かったです。（気仙沼市・韓国）
- ・最も恐ろしかったことは情報が全くなかったということ、このような精神的な恐怖感はほんとうに怖かったです。（気仙沼市・中国）
- ・地震の経験がなかったので、食料、日用品などの用意がなく、慌てました。（登米市・中国）
- ・多くの人が溺れているのを見ました。浮輪があったら救助ができたのに・・・映画を見ているようなあまりにも衝撃的でした。それをただただ見ていることしかできず、情けなく思いました。（名取市・韓国）

●安堵

- ・福島に仕事で行っていた夫が4日後に帰ってきました。地獄から生き返ったような気持ちでした。（気仙沼市・韓国）
- ・1週間家族に会えませんでした。ひとりぼっちになったと思いました。子どもたちに会えた時は本当にうれしかったです。（女川町・ペルー）
- ・電気・水道が戻ったときはとてもうれしかったです。（登米市・韓国）
- ・友だちや日本語講座の先生たちと話したいとずっと思っていたので、「ふりかえる会」で会えてとてもうれしいです。（石巻市・フィリピン）

●不便・ストレス

- ・情報もなかなか入りにくく、ほとんど友達から聞いた情報に頼っていました。ラジオも聞いていましたが、難しい話はよく分かりませんでした。（気仙沼市・フィリピン）
- ・E-mail、インターネット、電話、連絡手段がすべて失われましたし、お店が開いてなかったり、買い物時間や買える品数に制限があったりして不便でした。（気仙沼市・アメリカ）
- ・食べ物を買うために長い行列に並びましたが、一緒に並んでいたお年寄りが気の毒でした。（登米市・韓国）
- ・電気がないことが不便でした。1歳の子どもの暗いところに慣れていないので、なかなか寝てくれず、毎日たいへんでした。（登米市・イギリス）
- ・酪農を営んでいて200頭ほど牛を飼っています。断水のために牛に飲ませる水がなくなり5日間も用水路から水を汲んできて飲ませました。それがいちばん大変でした。（川崎町・韓国）
- ・電話で通じなくて、コミュニケーションの手段を失って、永遠に隔絶されるような感じがしました。震災を目撃してからというもの将来への不安からあまり眠れなくなってしまいました。（石巻市・タイ）
- ・被災してから避難所を2か所回って、現在借家で家族と暮らしています。被災当時を思い出すのもつらいです。乏しい情報の中、子どもと自分が生き延びるので精一杯でした。災害弱者というのは、まさしく私たちのことです。子どもが体調を崩しても満足に診療を受けることができませんでした。学校はどうなるかととても心配でした。（東松島市・台湾）

●喪失

- ・早く以前のようなきれいで美しい気仙沼に戻ることを祈っています。(気仙沼市・チリ)
- ・この世が終わると思いました。津波が終わってから気仙沼に行ってみたら、テレビで見る以上に悲惨でした。家もなくなっていました。自分の家族は無事でしたが、ほかの人の家族のことを思うと悲しかったです。(気仙沼市・フィリピン)
- ・持っているものすべてを失ったことは悲しいです。生きてはいますが、津波で犠牲になった知り合いのことを考えると悲しくなります。町は 90%が止まっている状態だし、多くの方々が仕事を失っていて、生活がどう立て直せるのかが見えません。(南三陸町・フィリピン)
- ・知人に会っても「大丈夫ですか？」と聞くのが怖いところに住んでいます。自宅は大川小学校から車で 20 分ほどのところにあります。近所の方々とは「生き残ったね！」と声を掛け合っています。(石巻市・韓国)

●不安

- ・被災して仕事を失い、東京の大学に通う娘の学費や仕送りが苦しいです。授業料が免除されるかどうか分からないので・・・(気仙沼市・中国)
- ・仕事もなくなり、どうしていいか途方に暮れています。夜なかなか眠れず、つい先日まで友だちが津波に流される夢を見ていました。(気仙沼市・韓国)

●母国

- ・韓国から「帰ってきなさい」という電話が頻繁にきましたが、日本での生活が長く地震の経験もありましたので大丈夫と答えました。ただ原発の事故は怖かったです。今は状況が分かってきているので心配していません。(登米市・韓国)
- ・原発事故による放射能問題で、中国の親族から「早く子供を連れて中国に帰ってきて」という電話がたくさんありました。ですが、今回いちばん辛い思いをしているのは逃げ場がない被災地の日本人だと思いました。もうこれ以上、夫や夫の両親を悲しませたくないと思い、中国の親族を説得して日本に残りました。(登米市・中国)

●日本・日本人

- ・周りの人たちのことを考えてお互い手伝っていて感心しました。あんなに辛い経験をしたのに、声を出して泣く姿を見かけなかった。すぐ気持ちを切り替えて動き出しているように見えたのですが、もっと悲しみをストレートに表現してもいいのでは・・・(気仙沼市・韓国)
- ・地震直後、近所の人々がすぐにお年寄りと子供を集会所に集めました。食べ物を持ち寄って、一緒に料理をして食べました。日本人の助け合いの精神や温かさを実感しました。日本での生活がもっと好きになりました。(登米市・中国)
- ・コインパーキングに停めていた車が停電で出せなくなりました。仕方がないので一緒にいた中国人 5 人で力を合わせて車を出しました。すると、それを見ていた日本人から助けてほしいと頼まれ、結局 5 台を駐車場から出しました。これは日本人にはできない発想だったのかと思います。(石巻市・中国)

●家族

- ・いつも遊びに出かけてしまう夫が被災後は 24 時間一緒にいてくれたので、新婚のようでした。(川崎町・韓国)
- ・今回の地震で主人のありがたさと頼もしさを感じました。いつもは間違えて買ってきた物も恥ずかしくて交換に行けないような人でしたが、家族のために公民館に並んで配給のおにぎりをもらってきたり、自転車ですぐのところまで行って水を汲んできてくれたり・・・(大河原町・韓国)

●支援

- ・日本語講座の仲間たちとキムチを持って沿岸部の避難所にボランティアに行ってきました。（登米市・韓国）
- ・通訳のボランティアをするために2時間かけて歩いて往復しました。その間、知らない人と話しました。普段日本人は知らない人とは話ませんが、人間みな同じだと感じました。（仙台市泉区・中国）

●希望

- ・フィリピン人同士が一つになって、お互い助け合うようになりました。（気仙沼・フィリピン）
- ・私たちが支援してくれるたくさんの方にお会いでき、ひとりじゃないと感じました。生きていてよかったです。（南三陸町・フィリピン）
- ・人と人との間には無形の力があり、未来への希望が満ちていると感じました。今回の震災で、こんなにもたくさん心ある方がいらっしゃり、さらには世界各国の方々からご心配いただき、とても温かい気持ちになりました。（山元町・中国）

●感謝

- ・世界中の方々から様々な支援があり、感謝しています。（登米市・中国）
- ・初めの3日間は泣いていましたが、もう泣きません。今日の涙はうれし涙です。私が暗い顔をするとみんなが暗くなります。私が泣けばみんな泣きます。ですから、進んで明るくなろうと思いました。本当にたくさんの方々支援物資を送ってくださり、ありがたく思っています。嬉しくて涙が出るほどです。（南三陸町・フィリピン）

S.Kさん（南三陸町／台湾）※S.Mさん（石巻市／中国）代弁

現在、Sさんは台湾に戻っています。地震後、登米市内の駐車場で待ち合わせたSさんと会った時には二人で泣きました。Sさんは発災から1ヶ月ほどは涙も出なかったそうです。でも私と会った時には、駐車場だったのですが大泣きしました。登米はまったく被災していない地域でのことだったので、見ていた人はさぞ不審に思われたとかと思います。その後も2週間に1回ぐらい会っていて、前よりは元気になったように見受けられます。少し休む時間が必要だったのではないのでしょうか。

S.Rさん（仙台市／台湾）

地震の日は子どもサポーターの研修会で、MIAにいました。S.Kさんの車に乗って帰りました。家の中はめちゃくちゃでした。夜は怖くて眠れなかったのも、車の中で家族と過ごしました。水道は大丈夫でしたが、電気とガスはありませんでした。月曜日には、青葉区役所にバスで出勤しました。バスの時間が不規則だったので「仙台駅方面に行きます。乗りますか」とバス停に停まってくださる車がありました。私も2回ほど乗せていただきましたが、人間の互いに助け合う気持ちを感じました。

S.Mさん（石巻市／中国）

子どもサポーター研修でMIAにいました。コインパーキングに駐車していた車が停電で出せなくなりました。仕方がないので、石巻から乗り合わせてきた中国人女性5人でなんとかパーキングから車を出すと、それを見ていた周りの日本人男性たちに助けてくださいと言われ、5台の車を出しました。帰る途中に浸水してきた田んぼの写真を撮ったりして、今思うと不思議なのですが車中ではよく笑っていました。津波の怖さがまだわからなかったのですね。家は浸水していました。10日間避難所にいました。私はストレスからか吐血してしまい日赤病院にいったのですが、そこは野戦病院状態でした。他県から応援の医師たちが来ているのですが、「レントゲン室はどこですか？」と場所も分からない状態でした。点滴を打っていましたが、一向に吐血がおさまらないので薬が効いていないのではと尋ねると、これは薬ではなくスポーツドリンクのようなものだと言われました。お陰さまで今は落ち着いています。

S.Rさん（南三陸町／中国）

家は津波で全壊し、駐車場で一晩過ごしました。自営で金型工場をやっているのですが、工場もだめになりました。

Y.Hさん（白石市／中国）※M.Iさん（仙台市／フランス）代弁

地震の一週間前から病気のため入院をしていて、地震の時は一時自宅に戻ったようです。その後、大学病院に再び入院し、先週の日曜日に退院しましたが、今日は来られないとのこと。みなさまによろしくと言っていました。

S.Sさん（仙台市／中国）

当日はMIAの研修会に参加していました。その後、子どもを学校に迎えに行きました。学校で保護していた児童は全員無事でした。その日は車の中で一晩過ごしました。マンションに住んでいるのですが、普段は挨拶程度しかしない方も一人暮らしのお年寄りのために水を運んでいました。互いに助け合う光景に感動しました。

S.K さん（仙台市／中国）

MIA で研修を受けていました。大村課長と大泉さんが「ここは安全だから」と安心する言葉をかけてくれました。娘の事を真っ先に考えてとても心配になりました。家に帰るとピアノが10センチほども動いていて、こんなに大変だったのかと思いました。四郎丸に住む義父に避難を勧めに行ったのですが、頑固で決して動こうとはしませんでした。結局、津波は義父の家の50m先まで押し寄せました。後で普段は頑固な義父に「私と一緒にいたらSまで死なせてしまうことになったね。Sごめんね」と結婚以来初めて謝られました。大工の義父が作った家は30年経ちますが、ひびも入りませんでした。私は近所の人たちを避難所に誘導したりしました。夫とはなかなか連絡が取れず、ようやく会えた時は泣きました。

S.S さん（仙台市／台湾）

家にヒビは入りませんでしたが、夫婦間にはヒビが入りました（笑）
当時は仙台市内のホテルの5階で研修中でした。シャンデリアが落下するなど大変でした。
1時間後に車で泉区の自宅に帰りましたが2時間かかりました。夫の顔を見て30年ぶりに泣きました。その後、大使館から安否確認をしたいと連絡が入り、80名位いる台湾の方の安否確認を手伝いました。S.Kさんとは連絡が取れなかったのですが避難所にいる姿がテレビに映っているのを見つければすぐにMIAにも知らせました。

K.I さん（仙台市／中国）

MIA で研修中でした。子どものことが心配で、歩いて子どもを迎えに行きました。子どもたちは日ごろの避難訓練が身についていて、家に帰るとお風呂に水を貯めたりしていました。日ごろの訓練は大事だと感じました。夫とは連絡が取れず、公衆電話に並んだのですが、知らない人が電話を貸してくれた時につながって連絡が取れました。災害時のボランティアに登録していたので、国際センターでボランティアをしていましたが、そこから2時間かけて歩いて家に帰りました。その間知らない人と話をしました。日本人は普通知らない人とは話をしませんが、人間皆同じだと感じました。その後大使館の手伝いでバスの手配をしました。全く知らない山形のバス会社でしたが、3台しか手配できないと言われたのですが、その会社が他の会社にもあたってくれてとても助かりました。結局30台位のバスを手配しました。その作業が終わってからMIAで中国語対応のボランティアをしました。

L.W さん（仙台市／中国）

当時はMIAの子どもサポーターとして片平小学校にいました。その日は三者面談の日で1年生の子ども達を帰したところに地震が起きました。教室に先生といいましたが、半分の子どもたちは既に外にいました。先生に教室は私が見ているというと、先生は揺れの中、外の子供達を保護しに出て行きました。寒い中でしたが、先生は上着も着ず、子ども達の上着を取りに戻ったり、避難所としての体育館の準備に取りかかりました。自分の子どものことも心配だったと思いますが、一生懸命働いていました。その後、私は自転車で街なかを抜けて帰りました。街なかには人は出ていましたが、パニックもなく、建物も壊れていませんでした。家に着くと子どもが待っていましたが、地震が起きた時のことを思い出したくないのか子どもは詳しくは話してくれません。大学勤務の夫の研究室がある建物は壊れ、30年間の研究の成果が入ったパソコンは未だに取り出せていません。

K.M さん（石巻市／韓国）

あの日以来、知人に会っても「大丈夫ですか？」と聞くのが怖いところに住んでいます。地震が起きた時、私は石巻市内で車を運転していてちょうど橋の上にいました。市立病院に向かうか、自分の事務所に向かうかの選択が生死を分けました。結局事務所に向かうことにして助かりました。その後夫から電話が入り、帰ってくるのを待っていると云われましたが、何の意味か分からず家に帰ると、家の中はめちゃくちゃで「片づける人が帰ってくるのを待っている」という意味だったことがわかりました（笑）。自宅は大川小学校（全校児童の7割が津波で犠牲となった）から20分くらいの所にあります。周りの人とは、「大丈夫だった？」ではなく「生き残ったね」と声を掛け合っています。「大丈夫だった？」と聞くと、身内で犠牲者のいない人など誰もいないので怖いからです。今は運営するNPO法人国際地球村の活動を頑張ろうと思っています。津波で車を流された人が多いので、7月1日から主婦の買い物代行を始めようと思っています。

O.F さん（石巻市／韓国）

玄関まで水がきましたが、直接被害はありませんでした。テレビを見て状況を知りました。困難なことを乗り越えたあとはみんなが幸せになれると信じています。

O.R さん（東松島市／韓国）

地震の時は塩竈ジャスコにいて、そのあと友人の家でコーヒーを飲むつもりでした。その日は友人の家に泊めてもらい、翌日自宅に戻りました。家は一階部分が浸水してしまいました。お義母さんが入院中でしたが、夫も家の片づけ中に怪我をして入院してしまいました。私も骨折をしてしまいました。家族がまだ全快していないので、もう少し頑張らなければと思っています。

O.A さん（仙台市／韓国）

当日はMIAで研修中でした。自宅のある秋保地区に入ったら電気がついてしました。温泉街なので自家発電があったようです。自分のできる範囲でボランティアをしたいと思い外国につながることもサポートの代表の方と避難所となっていた入谷小学校に文房具を届けたりしました。来週は亘理小学校に辞書を届ける予定です。

S.K さん（山元町／韓国）

宮城県の一歩南にある坂元駅始め常磐線の3つの駅は津波で流されてしまいました。その日は休みで、たまたま家にいました。病気の韓国人の友人とサムゲタンを食べていました。地震が起きて、今まで一度も机の下にもぐったことはありませんでしたが、初めて机の下に身を隠しました。隣の工場から人が出て来て、車に乗っていた人も出て来ました。「逃げなくては」と思い、何を持って逃げようかと家の中に入ると、窓の外に津波が見えました。外にでて車で高台に逃げようと思い、夫の軽トラックに近所の人を乗せたところ、夫が「ちょっと待って、津波が引いている」と言ったのでとりあえず車の中で過ごすことになりました。家の前帯が津波で障害物がなくなったので、次の津波ではきっと自宅まで水が届くのではないかと心配でした。やはり津波を見た人と見なかった人では違うと思います。義母はデイサービスに行っており、建物は津波に襲われましたが、なんとか避難させていただき無事でした。交通手段がなく、MIAでの相談員としての活動ができなく情けなく思いました。しかし避難所で洗濯物を集めて洗濯をしたり、地元のFM局りんごラジオで活動したりしていました。町・近所・人の大切さを感じました。地震を体験して思ったことは、人間はなんとか生きられるということです。私には寒さアレルギーという特殊な病気があったのですが、なんとかこうして元気に生きています。

S.M さん（仙台市／フィリピン）

地震の当時は仙台市中心部の友人の家にいました。私はクリスチャンなので階段を降りながら知っているすお祈りを全て唱えましたがそれでも地震は収まらず、終いには亡くなった人のためのお祈りまでしました。アパートの階段をなんとか下り、近所の人たちと抱き合って喜びました。3 日後に夫が迎えにきました。夫の顔を見た瞬間、「私の家は無くなったのでは？」と不安になりました。ニュースでは蒲生地区の被害の様子があまり取り上げられてなかったので、それまで状況がわからなかったためとてもショックでした。私の家は無事だと思っていましたので……。ニュースでは被害の大きい地域しか取り上げていなかったの、報道の方にはきちんとすべての被害状況を伝えてほしいと思いました。それから、蒲生地区では津波のサイレンが鳴っても、津波を甘くみていた住民のほとんどが外に出なかったようですが、ヘリコプターで上空から訴えるとかもっと強い避難勧告があればと悔しく思っています。避難を促す、強く訴える、伝える力が必要だと思います。もし強く訴えていたら、あんなに多くの人々が死ななかったのではないかと思います。また支援についてもムラがあると思います。支援物資も団体ではもらえるが個人ではもらえないなど問題もありました。今後は地震と津波の恐ろしさを伝えていきたいです。

S.A さん（南三陸町／フィリピン）

今でも夢のようです。本吉で子どもサポーターの活動中に地震に遭いました。危ないので南三陸には帰らないでと言われましたが、どうしても帰宅したくて、片手に携帯、片手にハンドルで 70 キロ出して帰りました。（会に参加している）県警の方、見逃してください（笑）。しかし、ベイサイドアリーナに着いたところで止められました。しかたがないので、いつもはあまり行かない主人の実家に行きました（笑）。夫は志津川高校に非難していました。波だけでなく、家や家具が流れてきて、海に流されていく家の中に人がいて助けてと叫ぶ光景も見ました。ショックでした。まるで映画のような光景でした。もともとパニック映画は好きですが、現実になると「なにこれ」と思いました。そのうち泥だらけの人がやってきて、幽霊かと思ったら主人でした。「ママ、僕たちが一生懸命やってきた財産すべて流されたよ」と言いました。次の日からアリーナの本部にいて、MIA の災害時通訳ボランティアの登録証を提示して活動をはじめました。本部にいと情報が早く回ってきます。仕事がなくなったので毎日の生活のリズムが狂いがちです。体だけでも動かそうと救援物資の仕分け活動をしました。1 ヶ月経ってパンやおにぎりが出回り始め、1 ヶ月半で炊き出しが始まりました。国籍は関係なくみんな結ばれました。みんな平等でした。町民の半分以上が行方不明になりました。自然の力は止められません。0 以下からのやり直しです。町の中心部はすべてなくなりました。初めの 3 日間は泣いていましたが、もう泣きません。今日の涙はうれし涙です。私が暗い顔をするとみんなが暗くなります。私が泣けばみんな泣きます。ですから進んで明るくなろうと思いました。いろいろな方が物資を送ってくれたことは、とてもありがたいと思います。嬉しくて涙が出るほどです。

※みやぎ外国籍県民大学 とは？

海外からの結婚移住者が全ての市町村に散在している宮城県の多文化共生を推進するにあたり、これまで当事者でありながら担い手として活躍する機会の少なかった海外出身者の方たちを対象に、共に地域づくりに参画する人材育成を目的とした半年間にわたる研修事業。県内 9 市町に居住する 9 か国 30 名が受講。「国際結婚・離婚・死別を巡る問題」、「改正入管法」、「外国につながる子どもの育児・教育」、「異文化の中での心のケア」、「日本の冠婚葬祭の基本マナー」といったテーマの専門家による講義と医療、多言語相談、日本語学習のそれぞれの先進地域視察を行い、終了後は各自が居住する自治体の「人材」として活躍できるよう自治体に働きかけを行った。（主催／MIA 財団法人宮城県国際交流協会）

「外国人の立場から東日本大震災をふりかえる会」総括専門家会議

平成 23 年 8 月 22 日（月）13:30～

財団法人宮城県国際交流協会研修室

●出席者

弁護士	長尾 浩行氏（官澤綜合法律事務所）
申請取次行政書士	櫻井 克俊氏
宮城県警	田口 京子氏（通訳センター）
宮城県警	加藤 誠史氏（通訳センター）
臨床心理専攻	一條 玲香氏（山形大学大学院）
石巻地区	清水 孝夫氏（国際サークル友好 21 アドバイザー）
名取地区	若山 陽子氏（国際交流協会 ともだち in 名取事務局長）
資生堂	松田 佳重子氏（資生堂販売株式会社東北支社美容統括部長）
中国語通訳	孫 雪虹氏（MIA 外国人支援通訳サポーター）
韓国語通訳	齋藤 慧氏（MIA 外国人支援通訳サポーター）
タガログ語通訳	庄司 マリーン氏（MIA 外国人支援通訳サポーター）

●オブザーバー

公益財団法人兵庫県国際交流協会

副理事長 西田 裕氏

事業推進部交流課課長補佐 永田 展之氏

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン

プログラム グループ マネージャー 細井 なな氏

緊急・復興支援事業調整員 西村 梨沙氏

宮城県多文化共生社会推進審議会

委員 J・F・モリス氏

宮城県経済商工観光部国際経済・交流課

企画・多文化共生班主幹 岩見 吉三江氏

●事務局

財団法人宮城県国際交流協会

専務理事兼事務局長 梅原 廣

参事兼企画事業課長 大村 昌枝

企画事業課主任主査 大泉 貴広

企画事業課主事 伊藤 友啓

●議事録

孫雪虹氏

6回すべての「ふりかえる会」に通訳として参加した。被災者の声を直に聞いて、逆に感動と勇気をもたらした。一個人としてこれから被災者にどのような支援ができるかを考えている。

「ふりかえる会」に集まった人々の中には涙を流しながらつらい思いを語る人もいた。しかし、日本人の譲り合い、助け合いの精神、また自衛隊、警察、消防、災害ボランティアといった人々の無私の活動に感動し、最初はずらい涙が感動の涙に変わっていった。これは一生忘れられない。

震災で悲しい思いをしたが、日本に来たことを少しも後悔はしていない。復興に向けてできることをできる限り協力していきたい。

齋藤慧氏

「ふりかえる会」に参加し参加者の話を聞いていて感じたことは、みんな心の中に喋りたいことがたまっていたのだなということ。

特に印象的だったのは、日本語がほとんど分からない韓国人の話で、それまで日本での報道や行政からのお知らせなど何一つ理解できずにいた彼女が韓国からの電話で初めて「津波」や「原発」の状況を把握したとのこと。その方の不安がどれほどのものだったかと思った。また、震災後は何が起こるか分からないということで、常に遺言書を持ち歩いている韓国人の話も印象に残った。

本国の家族や知人から再三に渡って帰国をするよう言われたが、地域に根差し家族を持つ配偶者の人たちはほとんど帰国を考えなかった。自分が家族の一員であることを再認識した人も少なくなかったように思う。

しかし、正確な情報を得られず、うまく対応できていないケースが見られたことも事実で、やはり言葉は大切と痛感した。日本で生活するためにいちばん基本になるのが言葉で、MIAをはじめ各地域に日本語講座や個別サポートの仕組みなどはあるが、より一層の充実を希望したい。

庄司マリーン氏

私も言葉はたいへん大切と思うが、近所の人々と仲良く、しっかりコミュニケーションを図っていくことも同じぐらい大切なことだと思う。フィリピン人の中には、地域の近所の人々に助けられた人も少なくない。言葉が十分にできなくても、近所の人々に「こっちに逃げて！」などと具体的に分かり易い言葉で声をかけてもらったことで適切な対処ができた。震災のためだけではなく、毎日の生活のためにも日本語をしっかりと勉強し、近所の人々とふれあい、コミュニケーションを重ねることの重要性を強く感じた。

フィリピンコミュニティミヤギというゆるやかなネットワーク組織を震災後に立ち上げた。今回の震災で、誰にどうやって安否確認をすればよいのか全く分からず困ったことが教訓になった。気仙沼、南三陸、石巻といったそれぞれのコミュニティのリーダーと連携して、安否確認や情報提供を効率的に行えるようにしたい。

若山陽子氏

「ふりかえる会」は仙南エリアという地域のくくり方がたいへんよかったと思う。自分の地域だけでなく、近隣の地域でも自分たちと同じように頑張り、また苦しんでいる人がいるということをこの会を通じて知り得たことが非常に大きく、励みになった。

ネガティブな話もいろいろと聞こえてはきたが、その一方で、例えば今まで自分の気持ちをだましましやり過ごしてきた外国人のお嫁さんが、震災を機に自分が家族の一員であることを再認識できた、などといった前向きな話も聞くことができた。

清水孝夫氏

震災直前の段階で（清水さん所属の石巻の日本語講座には）登録している受講生が45名ほどいたが、震災後しばらくしても半数ぐらいしか安否をつかめない状態だった。「ふりかえる会」には（日本語講座の卒業生も含めて）60名以上が集まり、そこで震災後初めて会うことができた人も何人もいてたいへんありがたかった。

深刻な状況が終わったわけではないが、これまで多くの方々の支援を受けてきたので、今度は自分が支援をする側に回りたいといった前向きな人も出てきている。

田口京子氏

被災地での外国人の生活が気になっていた。MIA に続いて被災地各所を回ってみたが、日本の生活が長い方々が多く避難所や地域のコミュニティにしっかり溶け込んでいて、問題らしい問題も見えてこなかった。

そんな時 MIA の「ふりかえる会」の話を聞き、問題点を洗い出し、今後の指針が何かしら得られればと思い、オブザーブ参加した。被災者の話をただ寄り添って聞くぐらいのことしかできなかったが、悲惨な状況下でも周囲の暖かさに触れ日本人との距離が縮まったと感じたという話や日本人⇄外国人という区別なく助けてもらったことに感動したといった話を伺い、生活安全という立場から地域で孤立していない（ひとりじゃない）という認識を外国人住民がもっているようで、たいへん安心した。

また、言葉の問題については「津波警報発令」などと配慮に欠ける情報提供の在り方がやはり問題と感じた。「大きな波がきています、あぶないです」といったやさしい日本語を使うことでもっと伝わりやすくなったのではないかと。今後、警察内部でもしっかり検討していきたい。

MIA 大村

今回、MIA は県警に随分と助けられた。発災数日後から安否確認のネットワークを構築し、また、3月22日に緊急車両を手配した時も MIA の業務をよくご理解いただき通行証の発給にご協力いただいた。

加藤誠史氏

県警の通訳センターは刑事事件の加害者、被害者もしくは目撃者に外国人がいた場合に振り調べ、尋問の通訳をするところである。通常は事務所勤務のため、とかく視野が狭くなりがちである。

今回「ふりかえる会」に参加したことで、現場の実態を把握することができ、また、南三陸のアメリアさんや気仙沼の熊谷さんなど県警通訳登録者の安否を確認することもできた。もちろん電話でも確認はできていたが、やはり直接会うことで生活状況も含めた話を聞くことができたことは大きかった。

また、「ふりかえる会」で得た知見がその後の被災地巡回活動に大きく活かされた。警察というところと一般の方々には敬遠されがちなのだが、そうした了解を以て話すことで警戒心を解きほぐし、話を深く掘り下げることができた。

松田佳重子氏

一企業として、化粧品を扱う企業として、発災直後からどのような社会貢献ができるのかを探ってきた。3.11 直後はやはり水や食料などが必要とされていたが、女性の活力の源となる化粧品も時期が来ればきつと必要とされるはずと思っていた。

案の定、震災 2 週間後に女川の被災者から化粧がしたいという声が届き、サンプルなどをかき集め支援物資と一緒に被災地に送り込んだ。

その後、鏡が見たいという被災者の声が聞こえてきた。女性が 1 ヶ月も顔を見ることができない状況を想像し、社長に直訴して今回配布したような基礎化粧品のセットを 3 万セット準備した。ちょうどそのころに MIA から「ふりかえる会」の話があった。

物だけを提供すればよいのかと議論を経て、地元の美容部員のみならず本社から延べ 360 名の社員が被災地に派遣され、被災者に向けてハンドマッサージやフェイスマッサージを行った。研究員、マーケティング担当者、広報部員など様々なセクションの職員だったが被災地の現場で被災者に向き合うことで得るものも大きく、中には涙を流して東京に帰っていく者もいた。自分の仕事を見直すいい機会になったようだ。「ふりかえる会」に関しては、「自分が外国で暮らしているときに被災したら・・・」という想像をしつつ、臨んだ。実際に日本語が不自由な外国人と接してみて、聴覚障害者への心配りの在り方にも気づかされた。

若手の男性社員のたどたどしいマッサージを受けながら、被災し亡くなった夫や息子を思い出したという反響がいくつか寄せられた。

MIA 大村

今回の「ふりかえる会」において資生堂のマッサージと化粧品のプレゼントが呼び水になったことは間違いない。参加者の一部には「資生堂プログラム」と理解されていたほどである。資生堂の協力がなければ 200 名を超える参加者を集めることはできなかった。

櫻井克俊氏

今回の東日本大震災と阪神大震災との違いを数点挙げる。

阪神大震災の際、入管は個別の対応に追われ、忙殺されたという反省があったのか、今回は発災直後の 3 月 15 日には在留期間を一律 8 月 31 日まで延長するという決定が迅速になされた。

また、発災 2、3 日目の段階で法務局から被災した太平洋沿岸 5 県の在留外国人のデータを各国大使館に流したと入管から裏情報として聞いている。これにより各国大使館が自国民避難のためのチャーターバスをいち早く手配できたということらしい。これらの動きで、発災直後の混乱に拍車をかけずに済んだということは言えるかと思う。

「ふりかえる会」においては、「永住者」の在留資格を持つ日本人の配偶者の方々が中心的に集まったせい、行政書士が活躍する案件は少なかった。しかし、中には「日本人の配偶者等」の在留資格で夫を津波で失ったケース（※在留資格「日本人の配偶者等」はあくまで日本人との婚姻関係にある外国人に付与される在留資格で、1 年もしくは 3 年の在留期限となっている。そのため、日本人の配偶者と離婚・死別した場合、子どもがいるなどの場合を除き在留期間の延長、在留資格の変更などは認められない。）などもあるにはあった。これについては入管とも掛け合ったが結果的には在留期間の延長などはやはり認められず、特例的な措置はなかった。「日本人の配偶者等」という在留資格の不安定さが改めて認識させられた。

なお、宮城県内においてはコックなど就労系の在留資格を持つ外国人が原発問題の影響で帰国したまま再入国してこない、もしくは宮城県を避けて関東、関西圏に新しい仕事を求めて移住するというケースが多く、問題になっている。

長尾浩行氏

外国人問題に関心がないわけではなく、それなりに勉強もしてきてはいたが、宮城にはあまり外国人がいないという思い込みがあり、結果的にこれまで接点を持てずに来ていた。今回このような形で MIA と知り合い、「ふりかえる会」においてこれだけ多くの外国人がいることを初めて知った。地域になじんでいるということであれば、当然そこには法律問題が発生しているはずである。

この間、MIA からの紹介で外国人の案件数件に関わったが、抱えている問題の多くは相続問題で、それもごく一般的な法律問題なので、通訳を帯同するなど言葉の問題さえクリアできれば難しい問題ではない。今回の震災を機に気軽に弁護士に電話する関係ができたことが、双方にとって大きかったのではないかと思う。

なお、弁護士には 2 種類のタイプがあることをご了解いただきたい。多数派を占めるのは保守的で自分のフィールドから動かないタイプである。今回 MIA と私を繋ぐことになった東京の宮内氏などは自分からフィールドに出ていくアクティブなタイプで少数派である。

MIA 大村

そもそも長尾氏と MIA との連携には次のような経緯があった。東京の弁護士会から今回の被災外国人支援で MIA と連携したいとの申し出があり、それならば今後の具体的な支援を考え、ぜひ在仙の弁護士も帯同してほしいという MIA の希望を伝えたところ、東京の弁護士会の宮内氏と個人的にもつながりがあった長尾氏に白羽の矢が立った。

長尾浩行氏

多数派は弁護士会や弁護士会内の委員会の活動には熱心であり、組織対組織の関係を構築していけば、弁護士会からの協力も容易に引き出せるのではないかと思うし、私もそうした橋渡しに尽力したい。

MIA 大村

実際、9月上旬に仙台弁護士会とMIAの打ち合わせが用意された。今後の関係発展に期待したい。

一條玲香氏

「ふりかえる会」の開催タイミングが非常に絶妙だった。3～4月は被災直後で興奮状態だったが、5～6月になって例えば仮設住宅に入居するなど前を向いてこれからの生活を考えていかなければならない時期に「ふりかえる会」で話して書いて、自分の考えを整理することができた。ネガティブなことは一人でも繰り返しふりかえることができるのだが、よかったこと、うれしかったことを自分でふりかえる人はなかなかいない。この悲惨な震災の中で「よかったこと」「うれしかったこと」と言われ最初は戸惑っていたが、書き出ししていくうちに整理され、再認識につながっていた。

また、個人的なつながりでしか分からなかった安否を「ふりかえる会」の現場で支援者も含めて直接確認できたことも意義深かった。

それから、震災における様々な体験や思いを子どもとの関係で語っている参加者が多かったことも印象的だった。

オブザーバー

西田裕氏

今日この総括会議での様々な発言を聞き、1995年に起きた阪神大震災との違いを改めて深く知った。

今回の震災後、多くの支援団体がインターネット上で情報提供を行っていた。これはこれで有益ではあるが、阪神大震災当時も今も被災地にはビラ、チラシといったアナログ的な媒体が有効ではないかと思う(MIA事務局、深く同意)。

それぞれの経験をもとに共同して全国に向けて発信できることもあるかと思うので、連携を深めていければと思う。

細井なな氏

ふだんはフィリピンなど世界の子どもの支援している国際協力団体だが、今回の震災を受けて被災地域の子どもの支援を検討、実施している。MIAによれば地域の日本語教室が地域の在住外国人のセーフティネットの機能を果たしているとのことなので、そこを基軸にした支援活動をMIAと連携しながら行っていきたいと考えている。

MIA 大村

現在NPO、NGO、民間団体など様々な団体が宮城県において被災外国人の各種支援活動を行っているが、特定の国の人々だけを取り出して支援する在り方が散見され、疑問を感じている。せっかく地域に溶け込んで生活してきた外国籍住民がこの支援活動によって地域の中で浮き上がってしまい、家族や地域間に新たな摩擦が生じないか危惧している。MIAの支援活動ではこれまでこうしたやり方をせず、包括的に行ってきたし、配慮してきたつもりである。

J・F・モリス氏

今回の「ふりかえる会」に県警が加わったことは宮城県の多文化共生社会を推進していく者から見てたいへん大きな意義があったと思う。

また、被災地の外国人のセーフティネットとなった地域の日本語教室が今後もボランティア頼みでは立ち行かないのではないかと危惧が強まった。国レベルの議論が必要であろう。

今後については外国につながる子どもがたいへん気になる。様々な立場、ケースが考えられるので慎重かつ念入りな支援を希望したい。

「みやぎ外国籍県民大学」受講生の震災体験をまとめて、震災の記憶が風化する前に世に問うことが宮城県のより一層の多文化共生推進に寄与するのではないかと考えている。

KAWARABAN

震災復興支援特別号

2011 年 5 月

MIA 多言語かわら版

瓦版 MIA 多语种信息报

MIA 다언어 카와라 판

MIA's Multilingual Publication

MIA Informativo Multilingue

表紙のみ

財団法人 宮城県国際交流協会
Miyagi International Association

宮城県国際交流協会
미야기현 국제 교류 협회
Miyagi International Association
Associação Internacional de Miyagi

◆一日も早い復興と生活の再建に向けて◆

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、県内でも多くの方が亡くなられたり、住まいを失われたりして大きな被害を受けました。さらに、突然仕事や職場を失われた方、心に強い衝撃を受けた方も大勢いらっしゃる、私たちの日常に大きな影響を及ぼしています。

宮城県国際交流協会(MIA)は、震災からの一日も早い復興と県内で暮らす外国人の皆さんの生活再建に向けて、必要な支援を行うとともに、役立つ情報を提供していきたいと考えています。今回の「多言語かわら版」では、「みやぎ県政だより 5 月号」に掲載されている、震災で被災された方に対する各種支援制度や相談窓口の情報を多言語化し、ご紹介いたします。

◆하루라도 빠른 부흥과 생활 재건을 위해◆

2011년 3월 11일에 발생한 동일본 대지진으로 인해 미야기현내에서도 많은 분이 목숨을 잃거나 거주지를 잃는 등 큰 피해가 발생했습니다. 더우기 갑자기 일과 직장을 잃은 분, 마음에 강한 충격을 받은 분도 많이 계시며, 저희 일상에 큰 영향을 미치고 있습니다。

미야기현국제교류협회(MIA)는 지진재해로부터 하루라도 빠른 부흥과 미야기현내에 거주하는 외국인들의 생활재건을 위해 필요한 지원을 행함과 동시에 도움이 되는 정보를 제공하고자 노력하고 있습니다。이번 ‘다언어 가와라판’에서는 ‘미야기현정 소식 5 월호 (みやぎ県政だより 5 月号)’에 게재되어 있는 지진재해로 피해를 입은 분들에 대한 각종 지원제도와 상담창구에 대한 정보를 다언어화하여 소개드립니다。

◆Para que haja o mais rápido possível a reconstrução e recuperação do nosso cotidiano◆

A tragédia provocada pelo terremoto e tsunami do dia 11 de março de 2011 ocorrida na Costa Marítima do Nordeste do Japão abalou profundamente a província de Miyagi resultando em milhões de mortes e muitas perdas materiais além de perdas de moradia e emprego. É claro que além das perdas materiais e de trabalho, não podemos deixar de salientar que muitas pessoas sofreram muitos traumas afetando profundamente o nosso cotidiano。

Nós do Centro Internacional de Miyagi (MIA) estamos fazendo o máximo para que os estrangeiros que vivem em Sendai possam obter informações corretas além de auxiliar no que for necessário para que todos que vivem aqui possam o mais rápido possível caminhar para a reconstrução e recuperação de suas vidas. Neste número do [Kawaraban Multilingue] apresentaremos a tradução em várias línguas do Informativo do Estado [Miyagiken Dayori vol.5] onde constam os vários apoios oferecidos pelo governo para as vítimas do terremoto e tsunami。

◆面向早日复兴和生活重建◆

2011 年 3 月 11 日发生的东日本大震災,使县内众多住民遭受到不幸去世或失去住宅的灾难。此外还有很多人因震灾突然失去了工作或工作单位、受到重大心理打击。这一切都给我们的日常生活造成了极大影响。

宫城县国际交流协会(MIA)为使在县内生活的外国人在震灾后能早日复兴并重建日常生活、在进行必要支援的同时、还打算向大家提供一些有用的信息。

这次的「多语种瓦版」把刊登在「宫城县政讯息 5 月号」上的面向震灾受灾者的各种支援制度和咨询窗口信息以多语种方式介绍给大家。

◆For the Fast Reconstruction and Life Reestablishment◆

Due to the Great East Japan Earthquake that occurred on March 11th, 2011, an uncountable number of people have lost their lives even in Miyagi, and many have lost their homes, jobs, and their work places. These sudden changes have caused a destructive impact on the mental health of many people, and resultantly, our everyday lives were affected severely。

Miyagi International Association (MIA) provides the foreign nationals residing in Miyagi with necessary support and useful information, aiming to support their prompt recovery from the disaster. In this issue of "KAWARABAN", we will provide you with the multilingual information of the various support systems and consultation services for the victims of the disaster originally published in the May issue of Miyagi Prefecture News。



復興へ
頑張ろう!
みやぎ

齐心努力 重建家园!

우리 모두 손잡고 함께 힘내자!!

Stand together stand strong for Miyagi!

Muita garra e muita força !Estamos juntos Miyagi !!

M I A 多言語かわら版
瓦版 MIA 多语种信息报
MIA 다언어 카와라 판
MIA's Multilingual Publication
MIA Informativo Multilingue

表紙のみ



宮城県国際交流協会
미야기현 국제 교류 협회
Miyagi International Association
Associação Internacional de Miyagi
財団 宮城県国際交流協会
法人 MIYAGI INTERNATIONAL ASSOCIATION

◆ 震災後の心と体の変化について ◆

今回発生した東日本大震災のような大災害にあった後には、心と体にいろいろな変化が起こります。しかし、ほとんどの変化は時間とともに回復していきます。

「MIA 多言語かわら版」第 32 号では、宮城県精神保健福祉センターが「震災後の心のケア」をまとめたものを多言語化し、大災害の後に起こりやすい心と体の変化について紹介します。

震災後の自分自身の変化について、振り返ってみてください。

韓国語

◆ 지진후의 마음과 몸의 변화에 대하여 ◆

이번에 발생한 동일본 대지진과 같은 큰 재해를 입은 후에는 마음과 몸에 여러 가지 변화가 일어납니다. 그러나 대부분의 변화는 시간이 지나면 점점 회복됩니다.

「MIA 다언어 카와라 판」 제 32 호는 미야기현 정신보건복지센터가 정리한 「대지진 후의 마음의 케어(지원)」를 참고로 하여 큰 재해 후에 생기기 쉬운 마음과 몸의 변화에 대하여 소개하겠습니다.

대지진 후의 자기자신의 변화에 대하여 되돌아봐 주십시오.

ポルトガル語

◆ Mudanças no corpo e na mente após o Terremoto ◆

Após momentos de tensão vividos num terremoto como este que ocorreu na região leste do Japão é comum ocorrerem algumas mudanças no corpo e na mente. O tempo é um grande aliado na recuperação.

No número 32 do 「MIA Informativo Multilingue Kawaraban」 apresentaremos um resumo do artigo do Centro de Saúde Mental 「Cuidados com o Corpo e a Mente pós desastres coletivos」, que descreve algumas mudanças que podem ocorrer no corpo e na mente. Preste atenção na mudanças ocorridas consigo mesmo pós terremoto.

中国語

◆ 震灾后的身心变化 ◆

在类似这次东日本大震灾的大灾害发生后、人们在精神上和身体上可能会发生各种变化。但大部分的变化会随着时间的推移逐渐恢复。

在「MIA 多语种瓦版」第 32 期里、把摘录于宫城县精神保健福祉中心编辑的「震灾后的精神保健」手册的内容翻译成多语种版、向大家介绍有关大灾害后容易出现的各种身心变化。

请回顾一下震灾后您自己发生的变化。

英語

◆ Changes in your mind and body after the earthquake ◆

After experiencing a large-scale disaster like the Great East Japan Earthquake, you may notice some negative changes in your mind and body. However, most of these changes will heal themselves in time.

In this, the 32nd issue of the MIA Kawaraban, we have collected and translated information regarding mental health care after the disaster from the Mental Health Center of the Miyagi prefectural government. We will explain about changes in the mind and body that are likely to happen after big disasters.

Please take this opportunity to think about changes in yourself that have occurred since the disaster.



齐心协力 重建家园!

우리 모두 손잡고 함께 힘내자!!

Stand together, stand strong for Miyagi!

Muita garra e muita força !Estamos juntos Miyagi !!

海外出身ママとママを支援する人たちのための学びの会

大災害後、子どもの心とどう向き合うか？

主催 特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン

共催 財団法人宮城県国際交流協会

協力 登米日本語講座、多文化ファミリー会とめ

大災害を経験した子どもたちには、おとなとは違った心のケアが求められています。子ども特有の「心の動き・ゆらぎ」を理解したうえで、これからのすこやかな成長を見守ることは、親や周囲の方たちの責任ともいえます。特に、こどもに一番近い存在の母親のみなさまが冷静に子どもの状態を見極め、接することは重要なことといえます。

この学びの会は、さまざまな文化的背景をもつ母親たちに考慮した特別の企画です。海外出身のみなさまには通訳をつけてわかりやすく学んでいただきます。

また、ご家族、教育関係者、保健福祉関係者、地域の外国人支援サポーターのみなさまにおかれましても、御一緒に参加していただき、地域の子どもの育成を地域全体で見守る環境づくりに御協力ください。



- 日 時 平成23年10月1日（土）午前11：00～午後1：00
- 場 所 ホテルニューグランヴィア （登米市迫町佐沼字中江4-12-12）
- 参加費 無料
- 内 容
 - ・こどもの臨床心理専門家による講話（通訳付き）
 - ・心配なこと Q&A
 - ・英語・中国語・韓国語・タガログ語による手引きの配布
 - ・米国からの震災お見舞いキルトのプレゼント
- 参集範囲
 - ・登米市及び南三陸町在住の外国人及びその支援者（子ども同伴可）
 - ・登米市及び南三陸町国際交流担当課、教育委員会、保健福祉担当課
30名程度
- 申し込み（財）宮城県国際交流協会 Tel.022-275-3796
E-mail mail@mia-miyagi.jp

平成23年度国際協力セミナー「国際協力セミナーin 東松島」実施要領

目的

地域住民の国際協力への関心・理解層の拡大を目指す。

背景・経緯

本セミナーは、一般市民が国際協力を身近に感じ、国際協力への理解を深めることを目的とし、時宜にかなったテーマを検討・設定し、H13年度より宮城県国際交流協会と連携し開催してきた。

今年度は、昨年3月11日に発生した東日本大震災以後、震災前とは異なる子育て環境にいる被災地の方々に着目し、平成22年度のJICA東北広報事業で関係性を築き、かつ復興への取り組みとして地域復興推進員を派遣している東松島市において、保育士としての経験を活かしながらネパールにて国際協力活動を行っている登米市出身の桜井ひろ子氏による講演を通じて、被災地で厳しい子育ての現状に少しでも希望を持っていただけるような機会を提供するものである。

また被災者支援活動を行っている宮城県在住外国人の方々によるパフォーマンスや元JICAボランティアが撮影した世界の子どもの写真パネル展示を行うことにより、様々な分野の国際感覚を感じて国際理解を深める場とすると共に市民の国際協力への関心・理解への一助とする。

日時

平成24年2月11日（土） 13:30-15:00

場所

ひびき工業団地内 川下地区センター （東松島市川下字内響131-54）

対象者

東松島市仮設住民 50名程度

主催

宮城県国際交流協会（MIA）、JICA東北

後援

宮城県、東松島市、東松島市教育委員会、宮城県青年海外協力隊を支援する会、宮城青年海外協力協会、河北新報社、三陸河北新報社、石巻日日新聞社

協力

ひびき工業団地内自治会、東松島市鳴瀬被災者サポートセンター

参加費

無料

内容

タイトル「それぞれの道を楽しむ子育て ～日本のこども、世界のこども～」

全体共通プログラム

第一部（13:30-）モンゴル民謡と民族舞踊

パフォーマー：ボルジギン・イリナ氏（中国内モンゴル出身。これまでチャリティーコンサート等を数多く行い、内モンゴルに2校の学校を建設。）

第二部（14:00-）基調講話

テーマ「日本の子育て、ネパールの子育て（仮）」

講師：桜井ひろ子氏（保育士としての経験を活かし、退職後ネパールで村落開発支援を続ける。）

※第二部と並行 子ども託児所

こどもサポーター：これまで被災地支援活動を行っているJETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）参加者等

展示プログラム

○世界の子どもたち写真パネル展示（提供：元青年海外協力隊）

市町村日本語教室及び行政窓口巡回訪問

実施要領

1 目的

東日本大震災の発災後、外国人の安否確認や支援に自発的に取り組んでいた地域の日本語教室は、それぞれの地域に暮らす外国人にとってセーフティネットの役割を果たしており、地域の多文化共生にとって重要な役割を果たしていると言える。

この事業では、そうした地域の日本語教室を訪問し、自治体の担当者を交えて震災から約6ヵ月を経た現在の外国人の状況や日本語学習支援・外国人支援の現状について情報交換・意見交換を行うことにより、未だ支援を必要としている外国人の実態を把握すること、及び、当協会と各日本語教室・自治体とのより良い連携のあり方を模索することを目的とする。

なお、本事業は、「東日本大震災被災外国人支援事業」の一環として実施するものである。

2 内容

以下のとおりレンタカーを用いて各地を訪問し、日本語教室のボランティア及び自治体の国際交流・多文化共生担当者と情報交換・意見交換を行う。

3 訪問先

実施日	訪問地	相手方
8月30日（火）	気仙沼市	まちづくり推進課 菊田氏、村上氏 気仙沼市小さな国際大使館館長 ムザファー氏 はまろう会（日本語ボランティアグループ）千葉氏 ※ヘルパー養成講座見学
	南三陸町	総務課 氏家氏 南三陸町国際交流協会理事 佐藤氏
9月6日（火）	亘理町	企画課 猪俣氏、鈴木氏 国際交流協会わたり 佐藤氏、沼部氏、八巻氏
	山元町	山元町国際交流協会 岩佐氏
	角田市	政策企画課 堀米氏、高橋氏 角田市日本語教室講師
	岩沼市	日本語講座いわぬまアイビー 川村氏
	名取市	総務課 藤原氏、菊池氏 国際交流協会ともだちin名取 飯澤氏、小島氏、高島氏
9月13日（火）	石巻市	市民協働推進課 安部氏、亀山氏 国際サークル友好21 清水氏
	松島町	産業観光課 佐藤氏 松島日本語教室 小野氏

補足

「東日本大震災津波被災地日本語教室再建支援事業」について

市町村日本語教室及び行政窓口巡回訪問により、教材や備品が消失して教室の円滑な運営に支障を来している等、経費的な面で困難を感じている教室が多いことが明らかになったことから、義援金を活用して特に震災による津波で被害を受けた日本語教室7か所に1か所あたり10万円を交付し、活動の円滑な再開と安定的な運営の一助としてもらった。

MIA 日本語ボランティア 養成講座(南三陸編)

外国人と楽しく交流を深めながら
日本語習得のお手伝いをしてみませんか

**参加者
募集!**

宮城県には、現在たくさんの外国出身の方が暮らしています。地域の日本語教室は、そうした方々が基礎的な日本語を身に付ける場、地域住民とのつながりを得る場となっているほか、東日本大震災の際には、安否確認や情報伝達の場として、外国人被災者の大きな支えとなっていました。

この講座は、そのような地域の日本語教室において、外国人と交流を深めながら日本語習得のお手伝いをする「日本語ボランティア」として活動を始めるための基礎的な知識や心構えなどを学んでいただくためのものです。ご興味のある方はどなたでもご参加いただけます

●第1回

2011年**11月17日(木)** 13:30~16:30

- ・地域の国際化と日本語ボランティア活動
- ・私たちの使う日本語を見直す①
～外国語としての日本語～

●第2回

2011年**11月24日(木)** 13:30~16:30

- ・学習者の気持ちになってみよう～外国語学習体験～
- ・地域における多文化共生の取り組み
- ・私たちの使う日本語を見直す②
～「やさしい日本語」に挑戦～

●第3回

2011年**12月1日(木)** 13:30~16:30

- ・日本語学習支援の方法①
～日本語の教科書を見てみよう～

●第4回

2011年**12月8日(木)** 13:30~16:30

- ・日本語学習支援の方法②
～いろいろな素材を使っておしゃべりしよう～

■会場

第1回、第2回：南三陸町ベイサイドアリーナ1階 和室
(南三陸町志津川字沼田56)
第3回、第4回：南三陸町仮庁舎 会議棟
(南三陸町志津川字沼田56)

■定員

20名(定員になり次第締め切ります)

■受講料

無料

■講師

日本語学習支援 EN-NET(えねっと) 鈴木英子さん 他

主催／財団法人宮城県国際交流協会(MIA)
共催／南三陸町国際交流協会

●お問合せ・お申込み

南三陸町国際交流協会事務局(南三陸町役場総務課)
TEL: 0226-46-1370 FAX: 0226-46-5348
(財)宮城県国際交流協会
TEL: 022-275-3796 FAX: 022-272-5063
メール: mail@mia-miyagi.jp

お申込みの際は、お名前・ご住所・お電話番号をお知らせください。
※いただいた個人情報は、本講座の講座運営のためにのみ利用します。



「続トモダチ作戦」協力者からのメッセージ

日本語訳を貼付したファイルを名取市にお返しする際に、ボランティアのみなさんのメッセージも一緒にお送りしました。以下に抜粋して、掲載します。

Kさん MIAサポーター

私が参加していくらかでもお役にたてれば嬉しいです。

私の感動したのは、アメリカの子供達がみんな、被災地の方々、子供達にもこころを寄せてくれることです。とても心配してくれている。大人だったら僕はすぐにも助けに行きたいとか。住むお家がみつかるといいね。救援物資をすぐ送りたいとか。翻訳していて、涙がでるくらいうれしい。私にきているお手紙のようです。

実は私の実家と妻の実家ともに津波で流され、まったく家のかけらもありません。兄弟、いとこの多くが亡くなり悲しいですが、このように遠くの子供達からの激励はなにものにも代えがたい気持ちです。

災害でのボランティア活動のなかで、このような外国のかたとの交流ができて心がなごみます。アメリカの子供達によりしくお伝え願います。

本当にありがとう。みなさんの心配と激励を充分頂きました。と・・・

文章を書く力が すごい！！ こころが伝わります。と・・・。

Oさん GOZAIN

MIAのボランティアは今回が初めてでした。合同庁舎の扉を開けると、そこには午前中から多くの市民が駆けつけ懸命に翻訳している姿がありました。

届いたカードはどれも手作りの飾りと温かいメッセージであふれていました。アメリカに住んだ経験から、英語というのはシンプルな言葉ですが、その背後にあふれる想いがつまっている言語だと思います。子供たちが寄せたメッセージの想いを、その気持ちになって、被災者である私たちが最大限受け止めて日本語にしていく。市民ボランティアが翻訳することの意味の大きさを感じました。

そして、それらのメッセージの日付を見ると3月25日という文字が。震災のすぐ後にニュースを目にしたアメリカの人々がすばやく行動し、大使館などを通じて送られたものであることを知りました。世界中で災害やテロで苦しんでいる人々をニュースで見たとき、私たちは何か行動したのでしょうか？

これらのメッセージをたくさんの方々が手にとって下さることが私の願いです。

Oさん MIAサポーター

長い手紙、短いメッセージ、イラスト、なぞなぞ、スペルミス、読めない字 etc.

その一枚一枚に触れながら、手書きの温かさ、人の優しさにたつぷりと浸かることができました。果たして、よその国で同じような災害が起きたことを知った時、私はこれだけの行動が取れるだろうか。ちいさい子どもには恐らく教師が一生懸命に日本の悲劇を伝え、声をかけて下さったのでしょうか。アメリカの行動力と大きな愛情に敬服いたしました。同時に私も世界を意識しながら同じ地球の民として暮らしていきたいと思いました。出会いに感謝致します。津波の被害に遭われた方が一瞬でも笑顔になりますように。

Tさん MIAサポーター

今回の大変重要なミッションに参加でき、光栄です。英語に出会ってから数十年たちますが、今回初めて『英語という言語の持つパワー』のすごさに圧倒されました。

まだ幼い7、8歳のお子さんのからのお手紙なのに訳している自分自身も、本当に勇気づけられたというか、勇気と元気をもらいました。

心から『ありがとう』といたいです。

貴重な体験をさせていただきましたこと、心より感謝申し上げます。

MIAスタッフより

8月末に別件で名取市役所にお伺いした際、総務課の職員の方からこのファイルの存在を聞きました。

「何とかお役にたてれば」と思い、始めたこの「続トモダチ作戦」でしたが、分厚いファイルが6冊もあり、いったいどれくらいの時間がかかるものか正直なところ全く見当もつきませんでした。また、この翻訳作業はボランティアの方々にもたいへんな負担を強いることになるのではないかというのも大きな懸念でした。

9月15日から始まったこの作戦、10月末までの間に当協会を会場とした合同の翻訳作業を8回開催し、またメールを利用した在宅翻訳作業も並行しました。延べ100人の方から協力を頂きましたが、その方々から発せられるのは、一様に喜び、感動、感謝の言葉でした。ある方はほぼずっとハンカチで目頭をおさえながら翻訳されていました。ある方は、「これまでボランティア活動などに参加できず残念に思っていたが、この作戦に参加できて私もようやくボランティアできました。」と仰っていました。上記メッセージを見ていただいても明らかな通り、ボランティアのみなさまにとってもたいへん有意義な作業となったようで、これは私たちにとってもうれしい誤算でした。

米国のお子さんたちのまっすぐな思いをこの翻訳を通じて感じていただければ幸いです。

東日本大震災被災外国人支援事業

「テイラー文庫翻訳プロジェクト」

実施要領

1 目的

東日本大震災で津波の犠牲となった石巻の ALT テイラー・アンダーソンさんの遺志を継ぎ、同氏の家族が「テイラー文庫」を立ち上げ、テイラーさんに縁のある石巻市内の小中学校に英語の図書を寄贈している。

本プロジェクトは、当協会登録の MIA 外国人支援通訳サポーター、外国籍の子どもサポーターおよび宮城県災害時通訳ボランティアに協力を募り、「宮城 AJET」との協働で「テイラー文庫」の英語図書の翻訳作業をすすめ、以て「テイラー文庫」の利用促進に寄与することを目的とする。

2 主催

宮城 AJET (MAJET)

公益財団法人宮城県国際化協会 (MIA)

3 実施日時

第 1 回：平成 24 年 4 月 15 日（日）13:00～16:00

第 2 回：平成 24 年 5 月 12 日（土）13:00～16:00

4 実施場所

東北学院サテライトステーション

仙台市青葉区一番町 2-2-13 仙建ビル 1F

5 参加協力者

宮城 AJET（代表：キャメロン・ピーク）所属の JET 青年有志

MIA 外国人支援通訳サポーター、外国籍の子どもサポーターおよび宮城県災害時通訳ボランティア有志

6 経費負担

書籍運搬費（石巻各小中学校⇄仙台） MAJET 負担

事務費（日本語訳文貼付用透明フィルムシール代ほか） MIA 負担（東日本大震災関連義援金より支出）

宮城県災害時通訳ボランティア派遣実績

平成 23 年 3 月～平成 24 年 3 月

日時	曜日	派遣言語	人数	場所	業務内容
H23/3/19	土	中国語	1 名	宮城県国際交流協会事務所	電話対応、安否確認書類作成
H23/3/20	日	中国語	2 名	宮城県国際交流協会事務所	電話対応、安否確認書類作成
H23/3/22	火	中国語	1 名	宮城県国際交流協会事務所	電話対応、安否確認書類作成
H23/3/23	水	中国語	2 名	宮城県国際交流協会事務所	電話対応、安否確認書類作成
H23/3/24	木	中国語	1 名	宮城県国際交流協会事務所	電話対応、安否確認書類作成
H23/3/24	金	中国語	1 名	宮城県国際交流協会事務所	電話対応、安否確認書類作成
H23/3/28	月	中国語	1 名	宮城県国際交流協会事務所	電話対応、安否確認書類作成
H23/3/29	火	中国語	1 名	宮城県国際交流協会事務所	電話対応、安否確認書類作成
H23/3/30	水	中国語	1 名	宮城県国際交流協会事務所	電話対応、安否確認書類作成
H23/4/8	金	英語	1 名	石巻市立鹿妻小学校	米軍仮設入浴施設に係る通訳
H23/4/9	土	英語	1 名	石巻市立鹿妻小学校	米軍仮設入浴施設に係る通訳
H23/4/10	日	英語	1 名	石巻市立鹿妻小学校	米軍仮設入浴施設に係る通訳
H23/4/11	月	英語	1 名	石巻市立鹿妻小学校	米軍仮設入浴施設に係る通訳
H23/4/16	土	英語	1 名	石巻市立鹿妻小学校	米軍仮設入浴施設に係る通訳
H23/4/17	日	英語	1 名	東松島市小野市民センター	米軍仮設入浴施設に係る通訳
H23/4/18	月	英語	2 名	東松島市大塩市民センター 石巻市立鹿妻小学校	米軍仮設入浴施設に係る通訳
H23/4/19	火	英語	1 名	東松島市小野市民センター	米軍仮設入浴施設に係る通訳
H23/4/21	木	英語	1 名	東松島市小野市民センター	米軍仮設入浴施設に係る通訳
H23/4/23	土	英語	1 名	東松島市小野市民センター	米軍仮設入浴施設に係る通訳
H23/5/6	金	中国語	1 名	ウエルサンピア仙台（仙台市若林区）他	台湾玩具図書館協会アテンド
H23/5/7	土	中国語	1 名	仙台市泉区虹の丘他	台湾玩具図書館協会アテンド
H23/5/22	日	中国語	1 名	ウエルサンピア仙台（仙台市若林区）他	台湾玩具図書館協会アテンド
H24/2/24	金	韓国語	1 名	仙台市若林区下飯田	水耕栽培設備マニュアル翻訳



さあ、七ヶ浜のみなさん、いらっしゃい！
おいしいイギリス料理を食べて、心と体を
温めませんか？

イギリス料理教室

本当はおいしい！イギリス料理教室

じっくり焼き上げたローストビーフ、カリカリとしたポテト、うまみがたっぷりの
グレービーソース。イギリス人の国際交流員と交流しながら、イギリス料理
を作りませんか？

主催：七ヶ浜国際交流協会
（財）宮城県国際交流協会

日時：平成24年2月26日（日）
午前10時～午後1時

場所：七ヶ浜国際村 食の工房

対象：七ヶ浜の東日本大震災被災者の皆様
及び七ヶ浜国際交流協会の会員



メニュー

ローストディナー

- ◆ローストビーフ
- ◆スタッフィング
- ◆「毛布巻き豚ちゃん」
- ◆グレービーソース
- ◆ローストポテト
- ◆茹で野菜盛り合わせ



講師 ルーク・ハップル

Luke Happle

- ・イギリス・サウスアンブトン出身
- ・宮城県国際交流員(C I R)



ネットワーク力向上のための 緊急研修会

みやぎ外国籍県民大学で出会ったみなさんは、東日本大震災後、海外出身者によるネットワークの重要さを感じたことと思います。この緊急研修会では、より強いネットワークづくりのための意見交換をおこないます。

■日 時 2012年4月22日 (Sun.)
1:00p.m. ~ 3:00p.m.
■会 場 AER 28F大研修室

●内 容

- 1) 新入学生紹介
- 2) 近況報告
- 3) 大震災後の「国別ネットワーキングの動き」について
 - ・フィリピンネットワークと支援の輪
 - ・中国ネットワークの進み具合
 - ・その他の国の状況
- 4) 今後の研修会の予定
 - ・『法律勉強会 離婚ケーススタディ』
5月22日 (Tue.) 2:00~4:00 仙台弁護士会館
 - ・『新しい入管法について』
6月か7月
- 5) その他

MIA ニューカマーのための生活適応支援プログラム

ぼうさい

まな

かい

防災について学ぶ会



ひょうしき い み し
この標識の意味を知っていますか？



しんさいご いま みやぎけん

震災後の今、宮城県では

ぼうさい
「防災」

だいじ
がとても大事です！

にち し ねん がつ にち か
日時： 2012年5月15日（火）



じ じ はん
12時～14時半

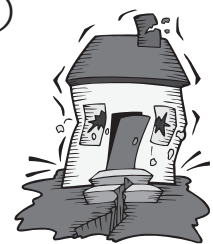
じ じ ちゅうしょく じ じ はん まな かい
12時～13時：昼食 13時～14時半：学ぶ会

かいじょう みやぎけんこくさい か きょうかい けんしゅうしつ
会場： 宮城県国際化協会（MIA）研修室

ないよう みやぎけん あんぜん く じしん つなみ さいがい
内容： 宮城県で安全に暮らせるように、地震や津波などの災害への
そな たいしよほう いっしょ まな
備えと対処法を一緒に学びます。

さん か ひ むりよう さんかしゃ ちゅうしょく ようい
参加費： 無料（参加者にはMIAで昼食を用意します）

もうしこ がつよう か か もう こ
申込み： 5月8日（火）までに申し込んでください
（電話、FAX、E-mailでもOKです）



かっくご つうやく ともだち かぞく
※各国語の通訳がつきます。 ※お友達や家族をさそってもいいです。

しゅさい みやぎけんこくさい か きょうかい
主催： 宮城県国際化協会（MIA）

きょうりよく せん だい ほう さい かくしゅう けん きゅう じょ
協力： SONAE仙台防災学習研究所

もうしこ と あ
お申込み・お問い合わせ

みやぎけんこくさい か きょうかい せん かい し けい ばく づう とう ほう さい かい ぎ
宮城県国際化協会（MIA） 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎7階
TEL:022(275)3796 FAX:022(272)5063 E-mail:mail@mia-miyagi.jp

被災から3か月。ようやく開催できた

「東日本大震災岩手・宮城・福島三県地域国際化協会中間総括会議」より

【平成23年6月10日仙台にて実施】

宮城県国際交流協会の総括

- ・ 平時よりインターネットの環境にない配偶者の方たちが多い本県では、ネット配信による情報提供は当初から戦力として考えておらず、現場に出向くことと電話に特化した情報発信を行った。そのために一昨年、新型インフル対応のために準備した言語別相談対応携帯電話5台および医療通訳受付専用携帯電話をフル稼働させた。
- ⇒この携帯電話があることで、職員が被災地巡回に出ているにもかかわらず相談対応が途切れることがなかった。
- ・ 外部からの支援者については、土地勘もないことから基本的にはお断りし、当協会と平時から信頼関係のある言語サポーターの協力のもと英語・中国語・韓国語に対応する協会職員、ブラジル人、フィリピン人相談員の連携で乗り切った。
- ・ ただし、弁護士や精神科医等の専門家からの申し出については、宮城県内の人材を同伴するということを条件に受け入れたところ、地元人材確保の成果を挙げることができた。特に、弁護士については現在も大変お世話になっている。
- ・ 早い段階から安否確認の件で宮城県警とは連携していたため、「緊急支援車両」手配も驚くほどスムーズにできた。
- ・ 特に避難所訪問については、現地の日本語教師や外国人リーダーが案内役を務めてくれたため、混乱する現場でとても助けられた。また、外国人被災者の生活復興支援のためにも、現地の人材と役所、当協会が三位一体となった支援態勢が取れたことは非常に有効であった。
- ・ CLAIR や JIAM と連絡を取る余裕もなかったことで情報に漏れが生じたことは大きな課題である。

宮城県国際交流協会の震災関連事業のこれから

- ・ 配偶者を失い孤立してしまっている外国人配偶者の個別支援
 - ・ 県内被災地7ヵ所での「震災ふりかえりの会」を終了後、各回で拾った外国人の声をまとめ、今後の災害時の外国人支援事業に反映させる。
 - ・ 宮城学院女子大学、明治大学（学部及び大学院のニコマ）、東京外国語大学での事例発表。
 - ・ CLAIR「国際化フォーラム」、移住連機関紙「Mネット」への寄稿
 - ・ 県内日本語教室、国際交流協会連絡会議
- ※ CLAIR 国内研修での事例発表を提案

宮城県国際交流協会の課題

- ・ JIAM、CLAIR、地域国際化協会連絡協議会からの支援の検証、提言
- ・ JIAM ⇒多言語支援センターはほとんど活用しなかった
- ・ CLAIR ⇒「災害時外国人住民支援活動助成金」の遡及交付
- ・ 地域国際化協会連絡協議会 ⇒年会費10万円の免除

被災三県の地域国際化協会からCLAIRへの要望

- 1) 災害時助成金の見直し、周知方法の見直しが必要。混乱の中、メールではなく直接来所して相談に応じてくれてもよかったのではないかな。
特に今回の震災は年度の終わりに発生したことから、年度単位の運用だと現実的には活用は難しかった。被災地は遑及して申請できてよいのではないかな。
CLAIRの報告では23年度の災害時助成金の交付実績は90数万円があったとされるが、肝心の被災三県は含まれていない。
- 2) 新たなCLAIR事業実施への協力について
海外事務所を通じての被災地ツアーの案に対して。
海外の自治体職員を同行させれば、要望は受理されるかもしれない。マスコミにも反応があることが見込まれる。
協会は通訳の手配など労力を必要とするが、発信はCLAIRが担当すればよい。そのための海外事務所なのでは。
- 3) 震災後の外国人住民の動向調査(アンケートは役立つかな?)
実際どのような行動をとったかは、アンケート形式でなくとも、知り得た。
アンケート形式だと、外国人は嫌がる。また、アンケートは断片的になる。
宮城県協会では「外国人による東日本大震災をふりかえる会」実施の際に、母語で自由記述してもらった。それは、不安に思ったことだけではなく、うれしく思ったことなども書き出してもらったのだが、どちらも同じ分量びっしり書かれた。
アンケート設問に対して回答を求めるのではなく、自由記述してもらったほうが本音を拾うことができたと思う。
拾う声の数はたくさんあったほうがよい。そこから何を学べるかが大切。
声を拾うためにどうしたらいいかな?福島は電話で聞き取りをした。普通の会話からだとなような話が出やすい。
日本語教室も拾う場としては最適。

これからの外国人対象防災研修について

- ・国によって異なる防災意識が異なることから、地震が起きた場合は、日本の建造物は耐震性が高いことをきちんと説明したうえで、むやみに外に飛び出さないよう声掛けすることが効果的であった。
- ・今回の震災が単なる地震ではなく、巨大津波、原発事故と多重災害となってしまったことからわかるように局面ごとに適切な判断ができる教育に変えていくことが必要。
- ・「避難」、「高台」といった防災用語がわかりにくかったという声もあるが、緊急を要する避難指示は、短い言葉で繰り返し伝えることこそ大事。わかりやすい日本語に置き換える、つまりセンテンスを長くする注意喚起は、災害の現場では現実的ではない。観光客は別として、定住外国人は自助力を高める意味でも、防災用語は身につけておくべきではないかな。

平成 24 年度地域国際化施策支援特別対策事業

平成 24 年度地域国際化協会連絡協議会研修助成対象事業

東日本大震災

被災地岩手・宮城・福島三県地域国際化協会からの報告

シンポジウム&被災地視察

『伝える・支える・立ち上がる…未来に繋げ、私たちの経験』

主催：(公財)岩手県国際交流協会、(公財)宮城県国際化協会、(公財)福島県国際交流協会

日時：平成 24 年 7 月 5 日(木)～7 月 6 日(金)

会場：ホテル法華クラブ仙台（宮城県仙台市青葉区本町 2-11-30）

宮城県南三陸町内

■目的

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災から 1 年以上を経た今、被災地三県の地域国際化協会が、発災から復興に向けた軌跡を振り返り発信することで、この未曾有かつ想定外の大災害から得た課題と知見をシンポジウム参加者と共有し、安心・安全な多文化共生社会の構築に寄与するものです。

本シンポジウムでは、多岐にわたる課題の中でも、特に**伝える**(多言語情報伝達)・**支える**(被災者生活復興支援)、**立ち上がる**(在住外国人による自助活動)を具体的なキーワードとした分科会を設け、それぞれの実態と課題を整理し、未来志向の提言を探ります。

■対象 地域の多文化共生に携わる地域国際化協会・行政・日本語教室・外国人支援団体・その他関心のある方（100名程度）

■第 1 日目 シンポジウム／7 月 5 日（木）午後 1 時～5 時 於：ホテル法華クラブ仙台
プログラム

- 1) 映像で振り返る東日本大震災
- 2) 岩手・宮城・福島 三県の被災状況と復興支援に向けた取組み
- 3) パネルディスカッション

『あのとき、現場では何が起こり、我々はどう動いたか？』

各県からそれぞれ多言語情報提供、被災外国人支援、エスニック・ネットワーキングに携わった当事者の皆様に登壇していただき、それぞれの体験の中から分科会へ繋ぐポイントを整理します。

4) 分科会 『伝える・支える・立ち上がる』

分科会 A 《多言語による災害情報提供は？》 進行／福島県国際交流協会

大災害発生直後から風評被害の払拭まで、時間軸に沿った多言語による情報発信のあり方について行政、地域国際化協会、通訳サポーターなど実践者の経験をもとに議論します。

■事例発表者

岩手県

- ・沿岸広域振興局経営企画部復興推進課長 菊池 学氏 ※技能実習生支援
- ・釜石市国際交流室 佐々木 絢也氏
- ・岩手県国際交流員 アマンダ・クリプス氏 ※NHK 盛岡放送局からの発信

宮城県

- ・山元町りんごFM ラジオ 朴 慧眞氏 ※韓国語での情報発信
- ・宮城県国際・経済交流課企画多文化共生班 岩見 吉三江氏
※多言語災害情報提供システム EMIS について
- ・宮城県国際化協会 伊藤友啓 ※緊急車両を活用したアナログの情報提供

福島県

- ・ちよん ひょん しる氏 ※風評被害払拭のための発信
- ・南相馬市国際交流協会 大谷留美子氏 ※避難を余儀なくされた立場として
- ・(財)いわき市国際交流協会 須向敏子氏 ※PC が使えずツイッターで発信

分科会B 《被災外国人生活復興支援は？》 進行／岩手県国際交流協会

災害時、在住外国人のセーフティネットとして機能した日本語教室や行政、外国人支援相談員など、実際に被災外国人支援に当たった実践者の経験をもとに議論します。

■事例発表者

岩手県

- ・オーシャンズ宮古国際交流倶楽部 佐々木 匡人氏
※被災地外国人相談員としての活動
- ・釜石市国際交流協会 加藤 直子氏 ※被災地外国人相談員としての活動
- ・岩手県国際交流協会 川村 央隆

宮城県

- ・国際サークル友好21 清水 孝夫氏 ※セーフティネットとなった日本語教室
- ・気仙沼市まちづくり推進課 村上 伸子氏 ※被災外国人の生活復興支援
- ・宮城県国際化協会 大泉 貴広 ※被害把握と専門家との連携

福島県

- ・NPO 法人外国人支援の会 ふれんず 梶田浩二氏 ※変わらぬ活動を継続する重要性
- ・ふくしま子どもの日本語ネットワーク 三田真理子氏 ※外国出身の子どもの支援
- ・会津若松市国際交流協会 馬嘉利氏 ※相談の中から見えてきた支援のありかた

分科会C 《外国人による自助組織・ネットワークは？》 進行／宮城県国際化協会

結婚移住者が地域社会の一員として根差している被災地で、災害を機に生まれつつある自助組織とエスニック・ネットワークについて、当事者である定住外国人の経験をもとに議論します。

■事例発表者

岩手県

- ・陸前高田市国際交流協会日本語講師 大和田 加代子氏
※被災地外国人相談員として活動
- ・陸前高田市在住フィリピン出身者 菅原 マリア氏
- ・岩手県中国人会 崔 華月氏

宮城県

- ・サンパギータ Fighting Ladies 会 佐々木 アメリア氏
- ・宮城県華人華僑同舟会 小関 一絵氏
- ・みやぎ外国籍県民大学 宮澤 イザベル氏 ※在県フランス出身者連絡網

福島県

- ・HAWAK KAMAY FUKUSHIMA 後藤 キャサリン氏
※震災を機に団体を発足。
- ・つばさ～日中ハーフ支援会～ 小島 梓氏 ※母語支援
- ・福島県国際交流協会国際交流員 ケビン シャ
※震災直後の JET 青年の安否確認と、その後の JET 青年の仲間で復旧復興活動を行う。

5) 全体共有

3 分科会で議論された内容を参加者全員で共有し、それぞれの地域において今後の活動に活かしていただきます。

■第 2 日目 被災地視察(希望者のみ)／7 月 6 日（金）午前 8 時 30 分～午後 4 時

視察先は、巨大津波の被災地・南三陸町です。今回の視察では、町の復興策のひとつとして企画された「語り部ガイド」プログラムを活用します。

大震災から 1 年以上を経た被災地の現状と、生活者として地域に暮らす海外出身者が地域社会の復興にどのように貢献しているか、その様子を見ていただきます。

また、車中では、地元メディアが編集した東日本大震災記録 DVD、記録書籍及び宮城県国際化協会が実施した「外国人による東日本大震災を振り返る会…石巻編」記録 DVD をご覧いただきます。（30 名程度）

参加
無料

ポスト3.11の沿岸被災地の 日本語教室の新たな動きとこれからの協働


日本語学習支援
ネットワーク 会議
2012 in 仙台
実行委員会

日本語学習支援ネットワーク会議 2012 in 仙台

宮城県内の沿海被災地域にある日本語教室では、3.11以後再出発を始めたところが多くあります。それらの教室では地元支援者に加えて、外部の支援者が参加したりするなど、新たな取組みが始まっています。そこでこの会議では、日本語教室の支援者と学習者を招いて、地域の日本人と外国籍配偶者、それぞれの立場からの思いを伝えあい、今後の協働について考えます。



2012年12月8日（土） 10:00-16:30

東京エレクトロンホール宮城（宮城県民会館） 601会議室

仙台市青葉区国分町3-3-7

<午前> 10:00~12:00

◇パネルセッション：ポスト3.11の沿岸被災地の日本語教室、これからの役割、つながりについて

- ・村上伸子さん（気仙沼市震災復興・まちづくり推進課）
- ・清水孝夫さん・杉山美恵さん（石巻市／国際サークル友好21）
- ・佐藤金枝さん（南三陸町国際交流協会）

<午後1> 13:00~13:50

◇文化庁からの報告：「生活者としての外国人」のための日本語教育事業について

<午後2> 14:00~16:20

◇ラウンドテーブル：宮城県各地域の日本語教室の支援者・学習者とともに語りましょう

主催：日本語学習支援ネットワーク会議 2012 in 仙台 実行委員会

共催：岩手大学国際交流センター（公財）宮城県国際化協会

宮城教育大学附属国際理解教育研究センター（財）仙台国際交流協会

後援：宮城県教育委員会、仙台市教育委員会

<申込書に必要事項を記入し、下記あてにFAXまたはメールにてお申し込みください>

申込み・問合せ先：公益財団法人宮城県国際化協会（MIA）大泉貴広

981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎7階

TEL: 022-275-3796 FAX: 022-272-5063 MAIL: mail@mia-miyagi.jp

■出講・シンポジウム等■ (平成 23 年 6 月～平成 24 年 12 月分抜粋)

平成 23 年

- 6. 29 明治大学／明治大学大学院 @東京都
- 7. 16 宮城学院女子大学 @仙台市
- 9. 30 多文化間精神医学会学術総会 @東京都
- 10. 18 兵庫県国際交流協会 @神戸市
- 11. 18 東北ヘルプの会 @仙台市
- 11. 26 東京外大多言語・多文化教育研究センター @東京都
- 12. 5 JIAM 全国市町村国際文化研修所 @大津市
- 12. 10 移民政策学会 @名古屋市
- 12. 17 宮城学院女子大学 @仙台市
- 12. 22 宮城教育大学 @仙台市

平成 24 年

- 1. 23 JIAM 全国市町村国際府文化研修所 @大津市
- 1. 28 CCE 地球の子ども通信 @仙台市
- 2. 4 和歌山県国際交流協会 @和歌山市
- 2. 17 Cultures United in Miyagi @仙台市
- 2. 18 大田区多文化共生推進センター @東京都
- 3. 1 外務省 @東京都
- 4. 21 東北学院大学 @仙台市
- 4. 30 日本学術会議地域研究委員会 @東京都
- 6. 2 七ヶ浜国際交流協会 @七ヶ浜町
- 6. 14 宮城学院女子大学 @仙台市
- 7. 1 三重県・伊賀の伝丸 @伊賀市
- 7. 14 こりあんコミュニティ研究会 @大阪市
- 8. 7 船橋市 @船橋市
- 8. 17 日本語教育学会 @名古屋市
- 8. 27 サポート 21 @仙台市
- 9. 6 宮城県仙台教育事務所管内小中学校校長会 @仙台市
- 10. 4 JAMP 市町村職員中央研修所 @千葉市
- 10. 6 民団兵庫県地方本部 @神戸市
- 11. 15 木曜会 @仙台市
- 12. 9 多文化共生シンポジウム in 角田 @角田市
- 12. 16 登米市国際交流協会多文化共生シンポジウム @登米市

■寄稿■

自治体国際化フォーラム Vol. 262

自治体国際化フォーラム Vol. 273

ひょうご人権ジャーナル

婦人新報

移住連Mネット

移民ディアスポラ

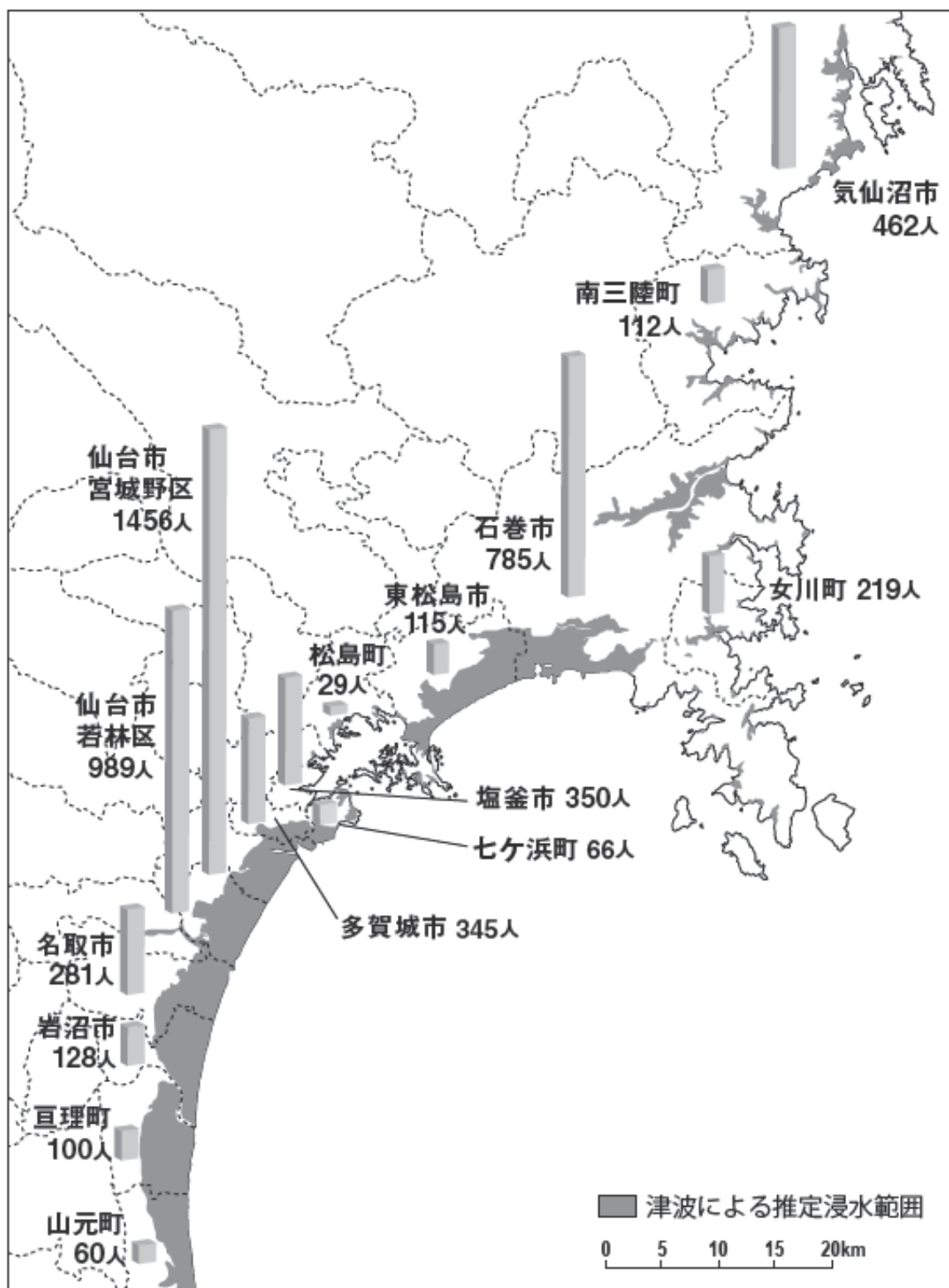
こりあんコミュニティ研究

ARCHIVE 3.11

東日本大震災 宮城県国際化協会 20 か月の軌跡

第三章 資料編

宮城県津波被災状況と各地の外国人登録者数



出所：国土地理院浸水範囲概況図及び宮城県国際経済・交流課調べ「宮城県外国人登録国籍別・在留資格別人員」を参考に宮城県国際交流協会作成

東日本大震災の被災地域における主な在留資格別外国人登録者数(法務省入国管理局資料)

		平成22年 12月	平成23年 3月		平成23年 6月			平成23年 9月		
				対前年末 増減率(%)		対3月末 増減率(%)	対前年末 増減率(%)		対6月末 増減率(%)	対前年末 増減率(%)
総 数	外国人登録者数	2,134,151	2,092,944	-1.9	2,093,938	0.0	-1.9	2,088,872	-0.2	-2.1
	うち 永住者	565,089	574,145	1.6	580,748	1.2	2.8	590,077	1.6	4.4
	日本人の 配偶者等	196,248	192,800	-1.8	190,478	-1.2	-2.9	185,495	-2.6	-5.5
	定住者	194,602	189,811	-2.5	186,486	-1.8	-4.2	181,528	-2.7	-6.7
	留学	201,511	161,317	-19.9	185,298	14.9	-8.0	186,272	0.5	-7.6
	技能実習	100,008	123,082	23.1	142,505	15.8	42.5	144,718	1.6	44.7
	家族滞在	118,865	119,508	0.5	120,633	0.9	1.5	120,032	-0.5	1.0
	人文知識・ 国際業務	68,467	70,129	2.4	70,589	0.7	3.1	68,926	-2.4	0.7
	その他	689,361	662,152	-3.9	617,201	-6.8	-10.5	611,824	-0.9	-11.2
岩 手 県	外国人登録者数	6,191	5,257	-15.1	5,205	-1.0	-15.9	5,167	-0.7	-16.5
	うち 永住者	1,561	1,587	1.7	1,601	0.9	2.6	1,629	1.7	4.4
	日本人の 配偶者等	778	736	-5.4	715	-2.9	-8.1	681	-4.8	-12.5
	定住者	256	240	-6.3	232	-3.3	-9.4	220	-5.2	-14.1
	留学	425	339	-20.2	358	5.6	-15.8	356	-0.6	-16.2
	技能実習	1,124	696	-38.1	916	31.6	-18.5	999	9.1	-11.1
	家族滞在	129	136	5.4	132	-2.9	2.3	131	-0.8	1.6
	人文知識・ 国際業務	72	71	-1.4	72	1.4	0.0	70	-2.8	-2.8
	その他	1,846	1,452	-21.3	1,179	-18.8	-36.1	1,081	-8.3	-41.4
宮 城 県	外国人登録者数	16,101	14,507	-9.9	14,016	-3.4	-12.9	14,003	-0.1	-13.0
	うち 永住者	3,983	4,060	1.9	4,066	0.1	2.1	4,137	1.7	3.9
	日本人の 配偶者等	1,507	1,450	-3.8	1,411	-2.7	-6.4	1,337	-5.2	-11.3
	定住者	413	399	-3.4	390	-2.3	-5.6	388	-0.5	-6.1
	留学	3,376	2,611	-22.7	2,720	4.2	-19.4	2,697	-0.8	-20.1
	技能実習	865	347	-59.9	278	-19.9	-67.9	341	22.7	-60.6
	家族滞在	1,183	1,097	-7.3	1,089	-0.7	-7.9	1,060	-2.7	-10.4
	人文知識・ 国際業務	360	377	4.7	363	-3.7	0.8	362	-0.3	0.6
	その他	4,414	4,166	-5.6	3,699	-11.2	-16.2	3,681	-0.5	-16.6
福 島 県	外国人登録者数	11,331	10,328	-8.9	9,927	-3.9	-12.4	9,676	-2.5	-14.6
	うち 永住者	3,889	3,952	1.6	3,880	-1.8	-0.2	3,888	0.2	0.0
	日本人の 配偶者等	1,662	1,580	-4.9	1,508	-4.6	-9.3	1,396	-7.4	-16.0
	定住者	703	664	-5.5	647	-2.6	-8.0	595	-8.0	-15.4
	留学	583	491	-15.8	467	-4.9	-19.9	421	-9.9	-27.8
	技能実習	1,072	847	-21.0	866	2.2	-19.2	909	5.0	-15.2
	家族滞在	270	264	-2.2	260	-1.5	-3.7	245	-5.8	-9.3
	人文知識・ 国際業務	221	220	-0.5	201	-8.6	-9.0	185	-8.0	-16.3
	その他	2,931	2,310	-21.2	2,098	-9.2	-28.4	2,037	-2.9	-30.5

(注)留学は、「留学」と「就学」の合算数、技能実習は、「技能実習1号イ」、「技能実習1号ロ」、「技能実習2号イ」及び「技能実習2号ロ」の合算数である。

平成23年度東日本大震災義援金

(単位:円)

月	日	勘定科目	事業名	摘 要	収入	支出	差引残高
		科目名	事業名				
5	31	諸謝金	KAWARABAN震災復興支援特別号	かわら版震災対応特別号翻訳謝金		240,000	△ 240,000
6	1	印刷製本費	KAWARABAN震災復興支援特別号	(株)鎌田プリント 特別号印刷製本料		170,100	△ 410,100
6	14	義援金		広島地域留学生団体育成支援協議会様	100,000		△ 310,100
6	24	義援金		和田京子様	10,000		△ 300,100
7	11	義援金		(特非)労働と人権サポートセンター・大阪様	30,000		△ 270,100
7	27	義援金		日本語教育学会様	100,000		△ 170,100
9	14	義援金		AOTSフィリピン同窓会様	369,700		199,600
9	30	義援金		調布市国際交流協会様	452,108		651,708
10	4	義援金		渡辺幸彦様	200,000		851,708
10	14	助成金	地域日本語講座再建支援事業	国際サークル友好21		100,000	751,708
10	14	手数料	地域日本語講座再建支援事業	振込手数料		630	751,078
10	21	助成金	地域日本語講座再建支援事業	気仙沼市小さな国際大使館日本語教室はまろう会		100,000	651,078
10	21	手数料	地域日本語講座再建支援事業	振込手数料		630	650,448
10	31	助成金	地域日本語講座再建支援事業	日本語講座いわぬまアイビー		100,000	550,448
10	31	手数料	地域日本語講座再建支援事業	振込手数料		315	550,133
11	2	助成金	地域日本語講座再建支援事業	わたり楽しい日本語講座		100,000	450,133
11	2	手数料	地域日本語講座再建支援事業	振込手数料		630	449,503
11	10	旅費交通費	子どもの心のケア研修会	子どもの心の研修会(登米市)ガソリン代		1,260	448,243
11	10	使用料及び賃借料	子どもの心のケア研修会	子どもの心の研修会(登米市)レンタカー代		12,705	435,538
11	17	通信運搬費	世界からのお見舞いメッセージ展	展示物 着払い送料		4,680	430,858
11	22	助成金	地域日本語講座再建支援事業	松島日本語教室		100,000	330,858
11	22	手数料	地域日本語講座再建支援事業	振込手数料		315	330,543
11	22	助成金	地域日本語講座再建支援事業	ともだち in 名取		100,000	230,543
11	22	手数料	地域日本語講座再建支援事業	振込手数料		630	229,913
11	24	旅費交通費	世界からのお見舞いメッセージ展	設営に係る高速道路料金		1,350	228,563
11	25	会議費	観光地インバウンド支援	(株)インターサポート		62,500	166,063
11	25	手数料	観光地インバウンド支援	振込手数料		315	165,748
12	2	義援金		(財)箕面市国際交流協会様	37,829		203,577
12	8	通信運搬費	世界からのお見舞いメッセージ展	展示物発送料		500	203,077
12	9	印刷製本費	トモダチ・コンサート	(株)鎌田プリント チラシ印刷製本費		21,945	181,132

月	日	勘定科目	事業名	摘 要	収入	支出	差引残高
		科目名	事業名				
12	9	通信運搬費	トモダチ・コンサート	(株)ユーメディア チラシ封入一式		1,050	180,082
12	9	通信運搬費	トモダチ・コンサート	チラシ郵送料		8,442	171,640
12	9	通信運搬費	トモダチ・コンサート	チラシ郵送料		3,214	168,426
12	9	手数料	世界からのお見舞いメッセージ展	振込手数料		315	168,111
12	9	使用料及び賃借料	世界からのお見舞いメッセージ展	設営・撤収に係るレンタカー代		28,770	139,341
12	9	旅費交通費	世界からのお見舞いメッセージ展	設営・撤収に係るガソリン代		6,282	133,059
12	9	手数料	トモダチ・コンサート	振込手数料		105	132,954
12	15	諸謝金	多文化シンポジウム(登米市)	被災地講師謝金及び交通費		10,977	121,977
12	15	諸謝金	多文化シンポジウム(登米市)	被災地講師謝金及び交通費		11,014	110,963
12	22	旅費交通費	トモダチ・コンサート	資材運搬のためのタクシー代		1,560	109,403
1	13	印刷製本費	トモダチ・コンサート	プログラム印刷代		18,375	91,028
1	13	使用料及び賃借料	国際理解教育支援・被災地支援	12/14・21 での理解教育のレンタカー代		27,510	63,518
1	13	旅費交通費	国際理解教育支援・被災地支援	12/14・21 気仙沼での理解教育のガソリン代		11,210	52,308
1	13	手数料	国際理解教育支援・被災地支援	振込手数料		315	51,993
2	10	使用料及び賃借料	国際理解教育支援・被災地支援	1/23 気仙沼での理解教育のレンタカー代		13,755	38,238
2	10	旅費交通費	国際理解教育支援・被災地支援	1/23 気仙沼での理解教育のガソリン代		6,431	31,807
2	10	手数料	国際理解教育支援・被災地支援	振込手数料		105	31,702
2	23	旅費交通費	イギリス料理講座	七ヶ浜国際村までの職員交通費		920	30,782
2	23	会議費	イギリス料理講座	イギリス料理講座材料費		20,719	10,063
3	27	諸謝金	兵庫県視察研修団受け入れ	被災外国人講師謝金及び交通費		10,348	△ 285
3	27	諸謝金	兵庫県視察研修団受け入れ	被災外国人講師謝金及び交通費		11,532	△ 11,817
3	30	使用料及び賃借料	兵庫県視察研修団受け入れ	3/28 被災地視察(兵庫県国際交流員等)レンタカー代		9,870	△ 21,687
3	30	旅費交通費	兵庫県視察研修団受け入れ	3/28 被災地視察(兵庫県国際交流員等)ガソリン代		2,206	△ 23,893
3	30	手数料	兵庫県視察研修団受け入れ	振込手数料		105	△ 23,998
3	30	自主財源		自主財源	23,998		0
				合計	1,323,635	1,323,635	0

平成24年度東日本大震災義援金

(単位:円)

月	日	勘定科目 科目名	事業名 事業名	摘 要	収入	支出	差引残高
4	2	義援金		NPO法人岡山日本語センター	5,000		5,000
5	21	消耗品費	「世界へありがとう」	(株)ハズグループ ラミネートフィルム外		5,681	△ 681
6	11	消耗品費	「世界へありがとう」	(株)ハズグループ レザープリンタラベル		12,600	△ 13,281
6	11	使用料及び賃借料	「世界へありがとう」	インターナショナルデイズ(七ヶ浜町)準備に係るレンタカー使用料		7,350	△ 20,631
6	11	旅費交通費	「世界へありがとう」	インターナショナルデイズ(七ヶ浜町)準備に係るレンタカーガソリン代		302	△ 20,933
6	11	手数料	「世界へありがとう」	振込手数料(使用料及び賃借料等支払)		105	△ 21,038
6	11	消耗品費	みやぎフィリピンコミュニティ福島応援プログラム	鳴海屋紙商事(株)福島県在住フィリピン人支援事業に係る「仙台七夕浪漫組立キット」		15,120	△ 36,158
6	11	手数料	みやぎフィリピンコミュニティ福島応援プログラム	振込手数料(消耗品費支払)		105	△ 36,263
6	22	旅費交通費	みやぎフィリピンコミュニティ福島応援プログラム	「みやぎフィリピンコミュニティ福島応援プログラム」出席職員旅費(3名)		1,500	△ 37,763
6	27	諸謝金	東日本大震災復興支援映画「じんじん」	製作協力者(キャメロン・ピーク外)に係る旅費		2,000	△ 39,763
7	4	義援金		社団法人日本語教育学会様	100,000		60,237
8	24	諸謝金	新在留管理制度及び外国人住民基本台帳制度について学ぶ会 in 南三陸	講師謝金及び交通費		7,680	52,557
8	24	旅費交通費	新在留管理制度及び外国人住民基本台帳制度について学ぶ会 in 南三陸	南三陸町出張に係る高速道路通行料		1,700	50,857
9	10	使用料及び賃借料	新在留管理制度及び外国人住民基本台帳制度について学ぶ会 in 南三陸	南三陸出張に係るレンタカー賃借料		12,705	38,152
9	10	旅費交通費	新在留管理制度及び外国人住民基本台帳制度について学ぶ会 in 南三陸	南三陸出張に係るレンタカーガソリン代		3,167	34,985
9	10	手数料	新在留管理制度及び外国人住民基本台帳制度について学ぶ会 in 南三陸	振込手数料(使用料及び賃借料等支払)		105	34,880
9	11	助成金	地域日本語講座再建支援事業	南三陸国際交流協会		100,000	△ 65,120
9	11	手数料	地域日本語講座再建支援事業	振込手数料(助成金支払)		315	△ 65,435
9	21	義援金		調布市国際交流協会様	150,000		84,565
10	11	諸謝金	東日本大震災被災地青少年国際交流事業	韓国理解講座講師謝金及び交通費		14,266	70,299
11	16	義援金		七十七銀行木曜会様	20,000		90,299
11	20	諸謝金	国際理解実践フォーラム2012	ゲストスピーカー講師謝金及び交通費		27,200	63,099
11	29	会議費	留学生のための防災研修会	ホテル法華倶楽部 会場使用料		143,250	△ 80,151
11	29	手数料	留学生のための防災研修会	振込手数料(会議費支払)		315	△ 80,466
11	29	会議費	韓国料理教室七ヶ浜編	(株)セアキカク 料理教室材料費		3,255	△ 83,721
11	29	手数料	韓国料理教室七ヶ浜編	振込手数料(会議費支払)		420	△ 84,141
				合計	275,000	359,141	△ 84,141

東日本大震災ドキュメント 2011. 3.11～4.30 (主に宮城県関連の政機機関発表資料および各報道)

Date	Time	Events
3. 11	14:46	宮城県北部で震度 7 の地震。震源地は三陸沖。M8.8 は観測史上最大。※3 月 13 日に M9.0 と訂正
	14:49	気象庁が東日本の太平洋沿岸に大津波警報発令。各地で死傷者や不明者多数
	14:52	宮城県村井知事が陸上自衛隊に災害派遣を要請
	15:00	東北電力女川原発が地震直後に自動停止
	15:04	仙台空港は地震直後に滑走路閉鎖。午後 4 時前に津波で冠水
	15:05	仙台市で大規模停電やガス漏れ、火災
	15:55	仙台新港で高さ約 10m の津波を確認
	16:00	気象庁が今地震を「平成 23 (2011) 年東北地方太平洋沖地震」と命名 ※後に「東日本大震災」と訂正
	16:13	宮城県ほぼ全域で停電
	18:16	気仙沼市で大規模火災
	20:07	気象庁が震源の深さを約 10km から約 24km に修正
	22:17	仙台市宮城野区の JX 日鉱日石エネルギーの仙台製油所液化石油ガスタンクで大規模爆発
	22:26	仙台市若林区荒浜で 200～300 人の遺体が見つかったと宮城県警
3. 12	0:04	昨夜午後 11 時現在、死者は 110 人、行方不明者は 350 人と警察庁
	0:16	地震調査委員会「宮城県沖、茨城県沖など 4 つの領域が絡んだ地震」との見解
	0:33	国土地理院「宮城県内の約 4m の地殻変動は観測史上最大」との見解
	6:01	宮城県内の死者 48 人、行方不明者 32 人、負傷者 235 人
	6:28	女川役場が屋上まで水没。町が孤立状態
	10:02	女川町立第 4 小学校で児童ら約 300 人が孤立状態
	10:10	仙台空港ターミナルビル屋上に 1300 人が孤立と報道
	12:00	宮城県警が岩沼市と名取市の体育館に計約 200 人の遺体を搬送
	15:36	東京電力福島第 1 原発 1 号機で水素爆発
	19:30	地震直後に仙台市内で発生した火災 35 件が午後 7 時までに鎮火
	20:56	南三陸町の住民約 9500 人と連絡が取れないと宮城県
3. 13	4:00	米太平洋艦隊による救援活動「トモダチ作戦」発令。原子力空母ロナルド・レーガンが仙台沖に到着
	9:00	菅首相が自衛隊の災害派遣を 10 万人態勢に増強するよう指示
	11:16	全壊や半壊、一部破損した建物が午前 10 時現在で 2 万棟超と総務省
	12:55	気象庁が東日本大震災のマグニチュード (M) を 8.8 から 9.0 に修正
	16:49	宮城県内の死者数について「万人単位になると思う」と村井知事
	17:54	被災地域の 13 金融機関に計 550 億円の現金を供給と日銀
	17:58	気象庁が太平洋側沿岸に出していた津波注意報を全面解除
	21:30	警察庁集計・死者は 12 道都県で約 1,353 人、行方不明は 5 県で計 1,085 人
	24:00	警察庁集計・死者、行方不明者が計 3,200 人超える
3. 14	6:30	総務省消防庁集計で全壊や半壊、一部破損した計 52,378 棟に
	8:00	死者は 1,598 人、行方不明者は 1,720 人と警察庁
	10:50	牡鹿半島の浜辺に約 1,000 人の遺体が打ち上げられていると県警
	11:01	東京電力福島第 1 原発 3 号機で水素爆発
	11:03	南三陸町でも 14 日までの捜索で約 1,000 人の遺体発見と県
	12:00	震災の死者は 1,647 人、行方不明は 1,720 人と警察庁
	17:04	被災地の各警察まとめて死亡・行方不明が 5,000 人を超える
3. 15	9:48	東京株式市場の日系平均株価が半年ぶりに 9,000 円を割り込む
	15:14	政府、被災地に限定し統一地方選延期の特例法案を 16 日閣議決定へ
	15:30	警察庁集計・2,722 人、行方不明者 3,742 人
	16:42	約 1 万人が安否不明となっていた南三陸町で約 2,000 人の無事を確認と県
	20:00	警察庁集計・死者 3,373 人、行方不明者 6,746 人で合わせて 1 万人を超える
	22:31	静岡県東部で震度 6 強の地震。M6.4
3. 16	9:30	警察庁集計・死者 3,676 人、行方不明者 7,845 人
	16:00	警察庁集計・死者 3,771 人、行方不明者 8,181 人
	16:03	菅首相「26,000 人以上を救出した上、一方で死者、行方不明者は 1 万人超」
	16:30	宮内庁は、天皇陛下が「皆がいたわり合ってこの不幸な時期を乗り越えることを心より願っています。」と国民に語り掛けるビデオを公表
	22:00	警察庁集計・死者 4,277 人、行方不明者 8,194 人

3.17	7:00	震災で全壊や半壊、一部破損した建物は計 100,396 棟と総務省消防庁
	7:00 ごろ	東北電力が計画停電実施を見送り
	9:48	東京電力福島第 1 原発 3 号機に陸上自衛隊のヘリコプターが水の投下を開始
	22:00	警察庁集計・死者 5,692 人、行方不明者 9,522 人
3.18	11:14	被災地の統一選を延期する特例法案が参院本会議で可決、成立
	23:00	警察庁集計・死者 6,911 人、行方不明者 10,692 人
3.19	23:00	警察庁集計・死者 7,653 人、行方不明者 11,746 人
3.20	16:00 ごろ	石巻市の崩壊した住宅から 80 歳の女性と 16 歳の少年を救出と県警
	23:00	警察庁集計・死者 8,450 人、行方不明者 12,909 人
3.21	21:00	警察庁集計・死者 8,805 人、行方不明者 12,654 人
3.22	17:00	4 月の統一地方選で、岩手、宮城、福島 3 県の延期決定と総務省
	23:00	警察庁集計・死者 9,199 人、行方不明者 13,786 人
3.23	14:48	被害額が阪神大震災の約 10 兆円を上回る 25 兆円におよぶと内閣府試算
	23:00	警察庁集計・死者 9,523 人、行方不明者 16,094 人
3.24	17:21	宮城県で強い余震、石巻市で震度 5 弱
3.25	23:00	警察庁集計・死者 10,102 人、行方不明者 17,053 人
3.26	19:18	岩手・宮城両県で震度 4
3.27	8:30	仙台港に 5,000 キロリットルのガソリンなどを搭載したオイルタンカーが入港
	21:00	警察庁集計・死者は 10,804 人、行方不明者 16,244 人
3.28	5:27	JR 仙石線が青葉通り駅からの一部で運転再開。仙台駅に通勤客の姿が戻る
	7:24	石巻市で震度 5 弱の地震
	16:00	東北新幹線は 4 月下旬までに全線復旧と JR 東日本
	21:00	警察庁集計・死者 11,004 人、行方不明者 17,339 人
3.29	10:00	宮城県災害対策本部、復興計画案を 6 月の県議会に提案と村井嘉浩知事
	21:00	警察庁集計・死者 11,168 人、行方不明者 16,407 人
3.30	10:05	宮城県災害対策本部、漁船約 12,000 隻が津波で大破・流失との調査結果公表
	21:00	警察庁集計・死者 11,362 人、行方不明者 16,290 人
3.31	21:00	警察庁集計・死者 11,532 人、行方不明者 16,441 人
4.1	17:30 ごろ	菅首相、今回の大地震による災害の名称を「東日本大震災」に閣議決定したと発表
	21:00	警察庁集計・死者 11,734 人、行方不明者 16,375 人
4.2	20:00	警察庁集計・死者 11,938 人、行方不明 15,478 人
4.3	12:00 すぎ	南三陸町の住民約 1,100 人の集団避難で、第一陣が出発
	18:00 すぎ	被災 3 県で自衛隊と米軍などが実施した集中捜索終了。計 78 遺体を収容
4.4	20:00	警察庁集計・死者 12,259 人、行方不明者 15,315 人
4.5	20:00	警察庁集計・死者 12,431 人、行方不明者 15,153 人
4.6	16:00	震源域海底が東南東に約 24m 移動し、約 3m 隆起の地殻変動と海上保安庁
4.7	11:45 ごろ	復旧・復興の今年度第 1 次補正予算は 4 兆円規模を目指すと政府首脳会議
	23:32	宮城県で震災後最大となる震度 6 強の地震、気象庁は宮城県太平洋沿岸に津波警報発令

4. 8	8:00 9:30 20:00	警察庁集計・7日の地震による重軽傷者は東北6県で132人 総務省消防庁集計によると、7日の地震によって宮城、山形両県で2人死亡 警察庁集計・死者1万2,787人、不明者1万4,991人に
4. 9	18:42	宮城県北部で震度5弱の地震
4.11	14:46 17:00	東日本大震災から1ヶ月、地震発生時刻、各地で黙とう 警察庁集計・死者13,130人、行方不明者13,718人
4.12	19:00	警察庁集計・死者13,232人、行方不明者14,554人
4.13	8:00 17:30 19:00	仙台空港が再開。羽田発の日本航空便がほぼ満席の121人を乗せて到着 政府税制調査会全体会合。被災者支援に向けた税制特例配置を決定 警察庁集計・死者13,392人、行方不明者15,133人
4.14	14:00 19:00	政府の復興構想会議初会合 警察庁集計・死者13,498人、行方不明者14,734人
4.15	19:00	警察庁集計・死者13,591人、行方不明者14,497人
4.16	18:00	警察庁集計・死者13,705人
4.18	8:30 ごろ 12:00 ごろ	南三陸町の公立志津川病院が避難所敷地内で診察を全面再開 仙台市の小・中学校で学校給食が再開。給食センター6カ所中5カ所が調理できず、コッペパンと牛乳だけの簡易給食
4.19	9:00 ごろ	仙台市若林区の2校が間借り先で始業式
4.20	10:00 ごろ	総務省が被災3県の地上デジタル放送への完全移行を最大1年延期と発表
4.21	5.11 10:00	JR東北線・仙台―一関間で運転再開、東北線は全線復旧 宮城県が復興工程を発表。「3万戸の仮設住宅建設を9月末までに完了させる」
4.22	15:00	JR東日本、東北新幹線が29日に全線で運転を再開すると発表
4.23	9:00	ギラート豪首相が南三陸町を訪れ被害状況を視察。外国首相では初 マリニピア松島水族館が営業再開。ケーブペンギンの赤ちゃんお披露目
4.24	8:00 ごろ 10:00	気仙沼市で海中に沈んだ被災船の撤去作業開始 石巻市・大川小が死亡・行方不明の当時6年生の保護者に卒業証書を授与
4.25	6:02 11:00	東北新幹線・仙台―福島間で運転を再開、45日ぶりに仙台―東京間が直通運転 日本製紙石巻工場に巨大なこいのぼり。おなかに「Power of Nippon」の文字
4.26	12:55	村井知事が女川原発の立ち入り調査
4.27	13:01 16:15 ごろ	天皇、皇后両陛下が南三陸町へ。両陛下は大量のがれきが残る町並みに黙礼 政府の中央防災会議が震災後初めて会合。最大M8クラスの地震が前提となっている国の地震対策の抜本的見直しを図る 両陛下が仙台市宮城野区の体育館へ
4.28	10:00 ごろ 16:00	各地で四十九日法要。大川小では体育館に84人全員の写真が掲げられる 国土交通省は仙台平野で海拔0メートル以下の面積が震災前の5.3倍に広がったと発表 東松島市の仮埋葬場で合同法要
4.29	6:40 9:00 15:43	東北新幹線の東京・新青森が全線で運転再開。地震発生から50日目 松島湾内観光遊覧船が運行再開 クリネックススタジアム宮城開幕。東北楽天ゴールデンイーグルス、田中投手の完投でオリックスに3-1で勝利（観客：20,623人） ユアテックスタジアム仙台開幕。J1 ベガルタ仙台今季ホーム初戦を勝利で飾る（観客：18,456人）
4.30	15:10	2011年度第1次補正予算が全会一致で可決。4兆153億円

あとがき

平成 23 年（2011 年）3 月 11 日金曜日午後 2 時 46 分に発生した東日本大震災で被災されました皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。また、震災により犠牲になられました多くの皆さまに心から哀悼の意を表します。

『近い将来必ず来ると言われている宮城県沖地震』。

この数年来、宮城に暮らす私たちは、半ば定型句と化したこのフレーズに慄きながらも各事業所で、あるいは自宅でそれなりに備えをしてきたつもりでした。

しかし、あの日私たちを襲ったのは、M.9.0 という想像を絶する長く大きな揺れとそれに続く巨大津波。やがて想定もしていなかった原発事故までもが覆いかぶさるという未曾有の多重災害でした。

平成 24 年 1 月現在、宮城県における死者、行方不明者の数は 10,849 名(警視庁発表)、震災関連死は 812 名(復興庁発表)にも上っており、被災都道府県の中では最悪の犠牲者数を歴史に刻むこととなってしまいました。犠牲者のほとんどが、巨大津波により尊い命を奪われたわけですが、この中には水産加工場の技能実習生、語学指導助手、結婚移住者、宗教者といった外国籍の方々も 20 数名含まれておりました。

設立から四半世紀。宮城の多文化共生と向き合ってきた地域国際化協会として、私たちが想定外の多重災害に、局面ごとにどのような対応を図ってきたのかを時系列にあるがまま記しておくことは、今後の私たちの在り方を再考するうえでも重要な作業となると考え、本書の編集に取り組みしました。

発災からの 20 か月を振り返ることは、関わってきた職員にとっては冷静ではいられないことでもありました。あの風景、あの匂い、あの絶望感…。被災地に足を運ぶたび、私たちを襲ったあの感覚は、未だに職員一人ひとりの脳裏に鮮やかに蘇ります。一方で、あんなことが本当に起こったのか、まるで夢を見ているような感覚にも襲われます。

しかし、私たちはこの辛い体験から、これまでの四半世紀にわたる当協会の歩みが、決して無駄ではなかったことにも気づかせてもらうことができたのです。

大災害に備えての特別な備えもちろん重要ですが、結局は平素の取り組み、つまり「普段力」が試されたといっていよいでしょう。

反省すべきこと、至らぬことも多々ありました。しかし、私たちは甚大な犠牲に報いるためにも、これまでの「東北型多文化共生に則した事業の在り方」を信じ、より豊かな地域社会の創出に尽力することを誓うものです。

平成 25 年 1 月

この一冊を、被災した事務所の後片付けを共に行い、我々職員を信じ被災地の前線に送り出してくれ、そして、発災から 2 か月を経ずして急逝された元専務理事兼事務局長 故黒澤正敏氏に捧げます。



MIA Archive 3.11
東日本大震災
宮城県国際化協会 20 か月の軌跡

発行年月 2013 年 1 月

発 行 公益財団法人宮城県国際化協会
981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町 4-17
宮城県仙台合同庁舎 7 階
E-mail: mail@mia-miyagi.jp
URL: <http://mia-miyagi.jp>

この冊子は、財団法人自治体国際化協会の助成事業により作成したものです。